

(様式第10)

分大医総病第26号

令和4年10月5日

厚生労働大臣

殿

開設者名

国立大学法人大分大学長

北野正剛

大分大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地
氏名	国立大学法人大分大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

大分大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地
電話(097) 549 - 4411

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科		8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			<input type="radio"/>	11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍内科	2	児童精神科	3	神経小児科	4	病理診断科	5	形成外科
6	リハビリテーション科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位: 床)
30	0	0	0	588	618	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	422人	47人	439.1人	看護補助者	50人	診療エックス線技師	0人	
歯科医師	10人	1人	10.1人	理学療法士	12人	臨床検査 臨床検査技師	52人	
薬剤師	42人	0人	42人	作業療法士	9人		衛生検査技師	0人
保健師	2人	0人	2人	視能訓練士	7人		その他	0人
助産師	28人	0人	28人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人	
看護師	680人	27人	702.5人	臨床工学士	25人	医療社会事業従事者	10人	
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	11人	
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	1人	事務職員	176人	
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	36人	その他の職員	47人	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	48	眼科専門医	10
外科専門医	39	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	5	放射線科専門医	12
小児科専門医	21	脳神経外科専門医	14
皮膚科専門医	10	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	13	麻酔科専門医	16
産婦人科専門医	6	救急科専門医	9
		合計	229

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (三股 浩光) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

平成24年 4月～平成29年3月 医療安全部長
 平成16年10月～令和2年3月 メディカル・リスクマネジメント委員会
 令和2年4月～現在まで メディカル・リスクマネジメント委員会委員長
 平成17年 4月～令和2年3月 感染予防対策委員会委員
 令和2年4月～現在まで 感染予防対策委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	470.6 人	9.2 人	479.8 人
1日当たり平均外来患者数	1015.5 人	37.1 人	1052.6 人

1日当たり平均調剤数	1712.77	剤
必要医師数	109.6	人
必要歯科医師数	4	人
必要薬剤師数	22	人
必要(准)看護師数	276	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	236.08 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	8 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 81.71 m ² [移動式の場合] 台数 19 台		病床数	8 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 45 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	220 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動生化学分析装置		
細菌検査室	148 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	血液培養装置、質量分析器		
病理検査室	139 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動免疫染色装置、マイクローム		
病理解剖室	283 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台		
研究室	4585 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン、顕微鏡		
講義室	2010 m ²	鉄筋コンクリート	室数 13 室	收容定員	1697 人	
図書室	1703 m ²	鉄筋コンクリート	室数 13 室	蔵書数	111,065 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	83.8 %	逆紹介率	101.4 %
算出根拠	A: 紹介患者の数	9579	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12620	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	841	人
	D: 初診の患者の数	12440	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
佐藤 昌司	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
岡村 邦彦	岡村法律相談事務所		法律に関する識見を有する者	無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2
小野 克重	大分大学医学部		学長が必要と認める者	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
医学部附属病院のホームページにおいて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下胃切除術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 胃癌に対し胃切除術(幽門側胃切除術)が適応となる症例に対し、ロボット支援下に胃切除術(幽門側胃切除術)を施行した。			
医療技術名	縦隔鏡下食道切除術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 食道癌に対し食道亜全摘術が適応となる症例に対し、縦隔鏡下食道亜全摘術を施行した。			
医療技術名	光線力学療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 食道癌に対する根治的放射線療法後の再発/遺残病変に対し、光線力学療法(内視鏡下光線照射)を施行した。			
医療技術名	ロボット支援直腸切除・切断術	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 直腸癌に対し低位前方切除術・切断術が適応となる症例に対し、ロボット支援下に低位前方切除術・切断術を施行した。			
医療技術名	腹腔鏡下スリーブバイパス術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 高度肥満を伴った難治性糖尿病患者に対して、スリーブ状胃切除+バイパス術を施行した。			
医療技術名	経静脈電極抜去術(経静脈リード抜去術)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 ペースメーカーや植え込み型除細動器植え込み患者においてこれら体内デバイス機器に感染症を起こした場合、およびリードに伴う血管閉塞がある場合などに静脈リードの抜去を行う。			
医療技術名	ヌシネルセン髄空内投与	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 脊髄性筋萎縮症患者に対し、ヌシネルセンの髄空内投与による治療を行っている。			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 肺葉切除が適応される肺癌症例に対し、ロボット支援下に胸腔鏡下肺葉切除、リンパ節郭清術を行う。			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下縦隔腫瘍手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 縦隔腫瘍症例に対し、ロボット支援下に縦隔腫瘍手術を行う。			
医療技術名	HLA半合致同種造血幹細胞移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植を必要とする血液腫瘍患者に対し、HLA半合致ドナーからの移植を行う。			
医療技術名	新生児低体温療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 中等度あるいは重度の新生児仮死の新生児に対し、神経学的予後の改善のために最長72時間の低体温療法を実施している。			
医療技術名	HLA半合致同種造血幹細胞移植	取扱患者数	6

当該医療技術の概要

同種造血幹細胞移植を必要とするも適切なHLA一致ドナーが見つからない血液疾患患者に対し、移植後シクロフォスファミド投与によるGVHD制御を行い、HLA半合致ドナーからの移植を行う。

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	12
取扱い患者数の合計(人)	98

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	60	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1	
2	筋萎縮性側索硬化症	22	61	先天性副腎皮質酵素欠損症	5	
3	脊髄性筋萎縮症	1	62	サルコイドーシス	82	
4	進行性核上性麻痺	13	63	特発性間質性肺炎	77	
5	パーキンソン病	51	64	肺動脈性肺高血圧症	14	
6	大脳皮質基底核変性症	13	65	慢性血栓性肺高血圧症	4	
7	ハンチントン病	3	66	リンパ管筋腫症	7	
8	シャルコー・マリー・トゥース病	1	67	網膜色素変性症	22	
9	重症筋無力症	55	68	バッド・キアリ症候群	2	
10	多発性硬化症/視神経脊髄炎	41	69	原発性胆汁性肝硬変	27	
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	11	70	原発性硬化性胆管炎	2	
12	封入体筋炎	4	71	自己免疫性肝炎	30	
13	多系統萎縮症	11	72	クローン病	36	
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	40	73	潰瘍性大腸炎	70	
15	ライソゾーム病	1	74	非典型溶血性尿毒症症候群	1	
16	ミトコンドリア病	4	75	先天性ミオパチー	2	
17	もやもや病	9	76	遺伝性周期性四肢麻痺	1	
18	プリオン病	1	77	アトピー性脊髄炎	1	
19	進行性多巣性白質脳症	1	78	アイザックス症候群	1	
20	HTLV-1関連脊髄症	5	79	脳表ヘモジデリン沈着症	2	
21	特発性基底核石灰化症	1	80	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	
22	全身性アミロイドーシス	2	81	前頭側頭葉変性症	3	
23	神経線維腫症	7	82	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	16	
24	天疱瘡	5	83	レノックス・ガストー症候群	2	
25	表皮水疱症	1	84	スタージ・ウェーバー症候群	1	
26	膿疱性乾癬(汎発型)	8	85	結節性硬化症	9	
27	スティーヴンス・ジョンソン症候群	6	86	色素性乾皮症	1	
28	中毒性表皮壊死症	1	87	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7	
29	高安動脈炎	5	88	特発性後天性全身性無汗症	8	
30	巨細胞性動脈炎	11	89	マルファン症候群	2	
31	結節性多発動脈炎	10	90	エーラス・ダンロス症候群	1	
32	顕微鏡的多発血管炎	32	91	多脾症候群	1	
33	多発血管炎性肉芽腫症	27	92	ウェルナー症候群	2	
34	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	15	93	ファロー四徴症	2	
35	悪性関節リウマチ	12	94	急速進行性糸球体腎炎	4	
36	パージャール病	1	95	オスラー病	6	
37	全身性エリテマトーデス	231	96	閉塞性細気管支炎	1	
38	皮膚筋炎/多発性筋炎	80	97	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	3	
39	全身性強皮症	36	98	肺胞低換気症候群	1	
40	混合性結合組織病	35	99	副甲状腺機能低下症	1	
41	シェーグレン症候群	75	100	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	
42	成人スチル病	24	101	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	2	
43	再発性多発軟骨炎	6	102	メーブルシロップ尿症	1	
44	ベーチェット病	56	103	メチルマロン酸血症	1	
45	特発性拡張型心筋症	27	104	尿素サイクル異常症	1	
46	肥大型心筋症	11	105	家族性地中海熱	5	
47	再生不良性貧血	11	106	強直性脊椎炎	7	
48	自己免疫性溶血性貧血	1	107	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1	
49	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1	108	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2	
50	特発性血小板減少性紫斑病	27	109	クリッペル・レノネー・ウェーバー症候群	2	
51	原発性免疫不全症候群	3	110	後天性赤芽球癆	1	
52	IgA腎症	21	111	クロンカイト・カナダ症候群	1	
53	多発性嚢胞腎	8	112	アラジール症候群	1	
54	黄色靱帯骨化症	1	113	IgG4関連疾患	9	
55	後縦靱帯骨化症	4	114	黄斑ジストロフィー	3	
56	広範脊柱管狭窄症	4	115	レーベル遺伝性視神経症	2	
57	特発性大腿骨頭壊死症	125	116	アッシュャー症候群	1	
58	下垂体性PRL分泌亢進症	1	117	好酸球性副鼻腔炎	33	
59	クッシング病	6	118	ハッチンソン・ギルフォード症候群	1	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	118
合計患者数(人)	1767

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院診療基本料(一般病棟7対1)	・後発医薬品使用体制加算2
・特定機能病院入院診療基本料(精神病棟13対1)	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・データ提出加算2
・診療録管理体制加算1	・入退院支援加算1、入院時支援加算、地域連携診療計画加算及び総合機能評価加算
・医師事務作業補助体制加算1(20対1補助体制加算)	・認知症ケア加算2
・急性期看護補助体制加算2(25対1看護補助者5割未満)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算の注2のハ(夜間100対1急性期看護補助体制加算)	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算の注3(夜間看護体制加算)	・精神科急性期医師配置加算2
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・地域医療体制確保加算
・看護補助加算2(精神病棟のみ)	・救命救急入院料3
・療養環境加算	・救命救急入院料の「注3」に掲げる加算(充実段階評価A)
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料2、特定集中治療室管理料の注4(早期離床・リハビリテーション加算)
・無菌治療室管理加算1	・新生児特定集中治療室管理料1
・緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2、プレイルーム加算及び養育支援体制加算
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・感染対策向上加算の注2(指導強化加算)	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・植込型除細動器移行期加算	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・遠隔モニタリング加算	・薬剤管理指導料
・腎代替療法実績加算	・医療機器安全管理料1、2(歯科診療以外)
・喘息治療管理料	・重症患者搬送加算
・糖尿病合併症管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料イ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料ロ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ハ	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料ニ	・骨髄微小残存病変量測定
・外来緩和ケア管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・移植後患者指導管理料(1.臓器移植後の場合)	・がんゲノムプロファイリング検査
・移植後患者指導管理料(2.造血幹細胞移植後の場合)	・先天性代謝異常症検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・糖尿病透析予防指導管理料の注5(高度腎機能障害患者指導加算)	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・乳腺炎重症化ケア・指導料	・検体検査管理加算(I)
・婦人科特定疾患治療管理料	・検体検査管理加算(IV)
・腎代替療法指導管理料	・国際標準検査管理加算
・一般不妊治療管理料	・遺伝カウンセリング加算
・生殖補助医療管理料2	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・二次性骨折予防継続管理料1、3	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・外来腫瘍化学療法診療料1、連携充実加算	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ニコチン依存症管理料	・胎児心エコー法
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)、(II)	・ヘッドアップティルト試験
・がん治療連携計画策定料	・皮下連続式グルコース測定

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・長期継続頭蓋内脳波検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・神経学的検査	・がん患者リハビリテーション料
・補聴器適合検査	・救急患者精神科継続支援料
・黄斑局所網膜電図、全視野精密網膜電図	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・ロービジョン検査判断料	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・コンタクトレンズ検査料1	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・内服・点滴誘発試験	・医療保護入院等診療料
・センチネルリンパ節生検(片側)	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
・画像診断管理加算1	・導入期加算2
・画像診断管理加算3	・透析液水質確保加算
・ポジロン断層・コンピューター断層複合撮影	・慢性維持透析濾過加算
・CT撮影及びMRI撮影	・血漿交換療法の注2(難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法)
・冠動脈CT撮影加算	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・外傷全身CT加算	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・心臓MRI撮影加算	・処理骨再建加算(四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術)
・乳房MRI撮影加算	・処理骨再建加算(骨悪性腫瘍手術)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・頭部MRI撮影加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・全身MRI撮影加算	・椎間板内酵素注入療法
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・内視鏡下脳腫瘍生検術
・外来化学療法加算1	・内視鏡下脳腫瘍摘出術
・無菌製剤処理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内皮移植加算	・経カテーテル大動脈弁置換術
・羊膜移植術	・胸腔鏡下弁置換術
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換(リードレスペースメーカー)
・網膜再建術	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術	・植込型除細動器移植術,植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・人工中耳植込術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・人工内耳植込術,植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・経静脈電極抜去術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・補助人工心臓
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び加算2	・経皮的下肢動脈形成術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(4側方)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術、胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)、(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)	・胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・内視鏡下筋層切開術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・経皮的冠動脈形成術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・経皮的冠動脈ステント留置術	・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下痔腫瘍摘出術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・輸血管管理料 I
・小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・コーディネート体制充実加算
・結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・同種クリオプレシピテート作製術
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・レーザー機器加算
・腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)	・麻酔管理料(II)
・同種死体腎移植術	・放射線治療専任加算(歯科診療以外)
・生体腎移植術	・外来放射線治療加算(歯科診療以外)
・尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・高エネルギー放射線治療
・膀胱水圧拡張術	・画像誘導放射線治療加算
・ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・病理診断管理加算2
・人工尿道括約筋植込・置換術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・脛腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・手術用顕微鏡加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	・口腔粘膜処置
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
角層pHを利用したアトピー性皮膚炎の発症予測法および発症予防法の開発	酒井 貴史	皮膚科学	1,088,311	補委 独立行政法人日本学術振興会
機能性間質に着目した、卵巣癌における腫瘍間質の起源・役割の解明	矢野 光剛	産科婦人科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胆道癌の個別化治療に向けたゲノム・分子異常予測のための画像診断法の開発	浅山 良樹	放射線医学	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒト単一胚細胞の新しい質的評価法の開発	西田 欣広	産科婦人科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒト胎盤栄養膜細胞における酸化ストレス負荷によるメタボローム解析	井上 尚実	産科婦人科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
心停止・心停止後症候群における酸化ストレス評価と治療介入の検討	重光 修	救命救急医学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
リアルタイムモニタリングによる効果的水素療法の検討	古賀 寛教	麻酔科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
インフルエンザ菌性慢性中耳炎マウスにおける免疫応答とTLR4の関与	松永 崇志	耳鼻咽喉科学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規活性物質の創出に向けた天然物活性中心骨格を起点とするタンパク質の機能制御	土川 博史	臨床薬理学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
非小細胞肺癌における所属リンパ節内血管新生の検討	安部 美幸	呼吸器・乳腺外科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
皮膚扁平上皮癌における腫瘍免疫療法および分子標的薬の適応についての研究	西田 陽登	診断病理学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
エストロゲンレセプターからみた前立腺肥大症の病態解明と新規治療法の開発	溝口 晋輔	腎泌尿器外科学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
心外膜前駆脂肪細胞の分化誘導による量と質の制御～心房細動の新たな治療戦略～	安部 一太郎	循環器内科・臨床検査診断学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
てんかんにおける神経調節物質・アデノシンの生理的・病理的意義の解明	岡成 和夫	小児科学	520,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
放射線性皮膚炎に対するαリポ酸誘導体を用いた新規治療法の開発	河野 洋平	高度救命救急センター	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

門脈系IVRにおける細径システムでの新たな門脈アプローチ法の開発	丸野 美由希	放射線医学	2,860,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ラット大腿骨骨欠損モデルにおけるカーボンナノチューブによる骨癒合促進の試み	金崎 彰三	高度救命救急センター	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
心外膜脂肪の遺伝子及び分泌因子解析による術後心房細動の発症機序解明と抑制剤開発	原田 泰輔	循環器内科・臨床検査診断学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肥満に伴う新型コロナウイルス感染の重症化に対するACE2の有用性	後藤 孔郎	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
miR-132をバイオマーカーとした子宮内膜症の早期診断・治療介入の構築	甲斐 健太郎	産科婦人科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
持続性心房細動アブレーション後の再発予測における圧受容体反射の有用性検証	三好 美帆	循環器内科・臨床検査診断学	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
洞房結節線維化を引き起こす病態メカニズムの解明とその進展を予防する治療の開発	篠原 徹二	循環器内科・臨床検査診断学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
外尿道括約筋におけるdecorinの機能解析と治療標的としての意義	篠原 麻由香	腎泌尿器外科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
食道がん予後改善のためのラマン分光分析に基づく反回神経術中同定法の開発	柴田 智隆	高度救命救急センター	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗菌ペプチドSLPIの腸管における機能解析と大建中湯の腸炎保護作用の解明	小坂 聡太郎	消化器内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
光バイオプシー技術を用いたヒルシュスプルング病の術中リアルタイム診断法の開発	小川 雄大	消化器・小児外科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
周術期合併症に関する予測因子の基礎的検討-スピンメタボロミクス臨床応用	新宮 千尋	麻酔科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
傷あと診断用人工知能の開発	清水 史明	形成外科	3,120,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規PIK3CD遺伝子変異によるSLE発症機構を解明する	清田 今日子	小児科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
心外膜脂肪の質を評価する新たな画像診断による心房細動ハイリスク患者検出	石井 悠海	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
25年間の大分市学童検診データを用いた成人生活習慣病予測法の開発	前田 美和子	小児科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ゼブラフィッシュを用いた遠位尿管アシドーシスに伴う難聴発症のメカニズム解明	池内 真代	小児科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

人工知能を活用した術中イメージングによる新たな胆嚢癌術中深達度診断法の確立	中沼 寛明	消化器・小児外科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
大分県の地域特性を活かしたがんゲノム医療と遺伝に関する看護教育プログラムの開発	塚谷 延枝	遺伝子診療室	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
持続的腎代替療法を加味した集中治療域における抗感染症薬の母集団薬物動態解析	田中 遼大	薬剤部	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新たな近位超音波ガイド下閉鎖神経ブロック法の開発と磁気刺激による筋電図評価の検証	内野 哲哉	麻酔科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
特発性肺線維症におけるメタボローム解析の臨床応用	濡木 真一	呼吸器・感染症内科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
胃癌腹膜播種に対するパルスレーザーを用いた新規光線療法の開発	白下 英史	消化器・小児外科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
RNA代謝異常による遺伝性網膜変性症の疾患モデル作製と発症機序の解明	八塚 洋之	眼科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
日本人肥満症患者における肥満外科手術後の代謝疾患、体組成、内分泌変化の関連	尾関 良則	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小児がん患者の抗腫瘍薬による致死性不整脈の早期検出法の確立	武口 真広	小児科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
難治性心房細動患者の血液成分を器官培養法に応用した線維化機序解明法の構築	福井 暁	循環器内科・臨床検査診断学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
プロトンポンプ阻害薬関連胃底腺ポリープとdysplasiaの発生機序に関する検討	福田 昌英	消化器内科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膵IPMNの代謝変化の解明による悪性化のバイオマーカーおよび新規治療標的の同定	平下 禎二郎	消化器・小児外科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ゲノム編集マウスを用いたケモカインCCL20の炎症性腸疾患における役割の解明	有木 晋平	消化器内科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ANCA関連血管炎性中耳炎の中耳貯留液を用いた早期診断法の開発	立山 香織	耳鼻咽喉科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
全身性慢性炎症とNVU障害を基盤としたアルツハイマー病の病態解明	木村 成志	神経内科学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小児・AYA世代AMLにおけるヒストン修飾に着目した予後因子の確立と治療開発	後藤 洋徳	小児科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
重症外傷患者における酸化ストレス制御を目的としたビタミンC補充療法の確立	竹中 隆一	救命救急医学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

クオリティーインディケーターによる小児鎮静の質的評価と鎮静教育プログラムの開発	久我 修二	小児科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
血管透過性調節機構に基づくARDS治療の基盤構築	赤嶺 孝祐	眼科学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
光療法が気分障害患者の脳に及ぼす効果:多角的な脳画像解析	平川 博文	精神神経医学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
DNA二本鎖切断を誘導し、口腔癌の原因となる歯周病菌と病原因子の特定	手島 理絵	歯科口腔外科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性副鼻腔炎における好中球機能とTLR4およびTREM-1の協調的作用について	森山 宗仁	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
うつ病から双極性障害を経て認知症に進展する一群におけるGSK-3遺伝子多型の関与	寺尾 岳	精神神経医学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
胃の腭上皮化生の発生メカニズムの解明	和田 康宏	消化器内科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
くも膜下出血の病態を制御するIL-23の機能解明と新規治療法の開発	阿南 光洋	脳神経外科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
急性腎傷害患者に対する持続的腎代替療法の終了基準の模索	安部 隆国	麻酔科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
蛍光蛋白質導入レオウイルスを用いた診断治療一体型ナビゲーション手術の開発	衛藤 剛	消化器・小児外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
認知症患者のピロリ菌CagA抗体陽性率の検討	塩田 星児	総合診療・総合内科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ユースング肉腫におけるマイクロRNAとDNA修復機構の治療抵抗性獲得への関与	河野 正典	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
網羅的代謝物解析によるSGA児の新たな発達予測因子の探求	関口 和人	小児科学	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト心房筋に対する炎症性サイトカインIL-10の直接的及び間接的効果	近藤 秀和	循環器内科・臨床検査診断学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
選択的Wnt/ β -catenin/CBPシグナル阻害による炎症性皮膚疾患の制御	広瀬 晴奈	皮膚科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
心外膜脂肪の線維化を検出し心房細動ハイリスク患者を同定するCT画像診断法	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗癌剤脱毛関連遺伝子の同定と予防法の開発	佐川 倫子	消化器・小児外科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

減量手術による肥満関連肝障害の予防とメカニズムの解明	嗟峨 邦裕	消化器・小児外科学	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
21水酸化酵素欠損症の治療最適化のための尿中・血中のモニタリング指標の比較検討	糸永 知代	小児科学	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
血糖値変動は冠攣縮性狭心症発症の危険因子となりうるか	秋岡 秀文	循環器内科・臨床検査診断学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
非小細胞肺癌におけるドライバー遺伝子と細胞周期関連遺伝子を標的とした治療開発	小副川 敦	呼吸器・乳腺外科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乳児の自発運動行動評価を利用した、神経発達症の早期発見健診システムの構築	小林 修	小児科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
術中臓器傷害の早期検出を目指した呼吸中揮発性有機化合物のリアルタイム測定法の確立	松本 重清	麻酔科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
NLRP3インフラマソームからみた前立腺炎症の病態解明と新規治療薬の開発	森 健一	腎泌尿器外科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肺癌の遺伝子多様性に基づく新規治療法の開発	杉尾 賢二	呼吸器・乳腺外科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肥満外科治療による脳内の摂食エネルギー代謝調節因子の解析	正木 孝幸	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
インドキシル硫酸による左房内皮障害を介した左房内血栓形成機序の検討	青木 宏平	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
オルガノイド樹立による大腸粘液癌の病態解明と治療標的の同定	赤木 智徳	消化器・小児外科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
M2タンパクと複合アジュバントを用いた新たなインフルエンザウイルスワクチン戦略	川野 利明	耳鼻咽喉科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
自発運動(GMs)評価精度向上と実践体制構築を可能とする評価訓練システムの開発	前田 知己	小児科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
胆管癌の抗癌剤治療抵抗性に関わる候補分子Clusterinの機能解析と治療応用	村上 和成	消化器内科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
miR-210 TGマウスにおける尿細管上皮増殖の機序解明と腎癌の新規治療法開発	中田 知里	腎泌尿器外科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ゲノム編集によるsyngeneic系を用いた(肉腫型)転座発がんのメカニズム解明	田仲 和宏	リハビリテーション部	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
弾性線維腫の原因遺伝子同定とモデルマウス開発一病態解明に向けて	藤原 作平	皮膚科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

神経系細胞の増殖を活性化させるための磁気の制御方法、及び脳・運動機能再建システム	藤木 稔	脳神経外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
子宮内膜症の癒痕形成メカニズムの解明と薬物療法の開発	奈須 家栄	産科婦人科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
緑膿菌線毛蛋白DNAと樹状細胞リガンドDNAワクチンによる緑膿菌肺炎制御の可能性	平松 和史	呼吸器・感染症内科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗炎症光線を用いた癌微小環境制御に基づく新しい大腸癌治療法の開発	平塚 孝宏	消化器・小児外科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
局所麻酔薬は抗酸化作用をもつか？それとも増強作用をもつか？	北野 敬明	麻酔科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小児AYA世代のがん経験者や家族の知的・身体的レジリエンスを評価・支援する研究	末延 聡一	小児科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Wnt/ β -catenin経路を標的とした増殖硝子体網膜症の治療法の開発	木許 賢一	眼科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害による上気道粘膜免疫応答賦活化	鈴木 正志	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗A β オリゴマー最小フラグメント抗体を用いた次世代抗体医薬品の開発	藪内 健一	神経内科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ラット骨粗鬆症モデルにおける骨粗鬆症治療薬と運動療法の効果の検討	坪内 優太	リハビリテーション部	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
好酸球性副鼻腔炎の病態におけるエンドカンナビノイドシステムの寄与についての研究	梅本 真吾	耳鼻咽喉科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
緑色波長光照射による血小板シグナルを介した肺保護効果の検討	小坂 麻里子	麻酔科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
発熱性好中球減少症時の抗菌薬適正使用と予後改善を志向した新規バイオマーカーの開発	伊東 弘樹	薬剤部	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
遺伝性神経変性疾患に認めるtRNA由来小RNAの生理的・病理的意義の解明	井上 真紀	小児科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ナノポアシークエンサーを用いた同種造血幹細胞移植後の網羅的ウイルス感染の検出	河野 利恵	腫瘍・血液内科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ラット脊椎固定モデルにおけるBMPと抗スクレロシン抗体の相互効果の検討	宮崎 正志	整形外科	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規治療の確立を目的とした全身性強皮症の血管病変モデルの作製	後藤 瑞生	皮膚科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

ユーンゲ肉腫特異的融合遺伝子によるRNAヘリカーゼAの機能抑制に関する研究	糸永 一朗	整形外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
眼感染症・迅速病因診断法の開発ー核酸精製不要・ポータブル型多項目遺伝子検査ー	中野 聡子	眼科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肥満関連腎症における尿沈査中ポドサイトmRNA排泄量の有用性の検討と進展機序解明	福田 顕弘	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
上下気道粘膜免疫における経年的免疫応答動態の解析	平野 隆	耳鼻咽喉科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Dual energyと超遅延相造影CTによる4次元CT血管造影エンドリーク診断	本郷 哲央	放射線医学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腎不全由来骨粗鬆症に対する活性型ビタミンD3製剤と運動療法併用の治療効果の検討	高瀬 良太	リハビリテーション部	470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
バーチャリアリティーによる身体認識操作を応用した新たな筋力増強訓練の開発	竹尾 雄飛	リハビリテーション部	430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
敗血症後認知機能障害に対する時計遺伝子リズム是正を目的とした新たな光療法の開発	小山 淑正	手術部	3,770,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
心外膜脂肪が心房線維化をきたす機序解明とこれを抑制する化合物スクリーニング系構築	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学	5,070,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
インドキシル硫酸のヒト心外膜脂肪に対する直接的効果の機序解明	高橋 正起	循環器内科・臨床検査診断学	460,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
漏斗胸など胸郭の狭さが引き起こす致死性不整脈～若年性心臓突然死の根絶を目指して～	児玉 望	循環器内科・臨床検査診断学	470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
生体内組織形成術による大血管用分岐弯曲バイオチューブの開発	首藤 敬史	心臓血管外科学	12,220,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
光造形と生体内組織形成術による自己成長可能な大血管再建用バイオチューブの開発	宮本 伸二	心臓血管外科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
細胞膜・血液脳関門通過型Aβオリゴマーマイクロ抗体による新規PET画像診断の創出	松原 悦朗	神経内科学	4,290,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
質量分析による抗BLyS抗体の高感度定量法確立とSLE患者の薬物動態解析への応用	海士野 恵理乃	薬剤部	460,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
副腎皮質ステロイドによるシスタチンC偽陽性を考慮した新規腎機能補正式の開発	津下 遥香	薬剤部	450,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
12成分同時測定法を用いたICU患者のPK/PD解析と投与設計法の確立	甲斐 真己都	薬剤部	460,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

癌悪液質の進行度とCYP3AおよびOATP1B活性の関連性の解明	炭本 隆宏	薬剤部	450,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
アゾール系抗真菌薬の個体内変動に影響を与える炎症および遺伝的背景の検討	左藤 悠	薬剤部	470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
テイコプラニン6成分の体内動態に影響するアルブミンの質的変動の検討と臨床応用	宮城 知佳	薬剤部	430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
遊離型薬物濃度を指標としたイトラコナゾールの治療効果に及ぼす活性代謝物の影響	岩男 元志	薬剤部	470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
免疫チェックポイント阻害剤治療患者におけるirAEと生理活性ペプチドとの関連性の検討	岡原 愛	薬剤部	470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
ショートハイドレーション法の有用性の検証とNGAL測定の意義	大塚 恵理子	薬剤部	253,472	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
天然物様三次元骨格を持つペプチド擬態化合物の分子設計と作用機序	松岡 茂	臨床薬理学	5,590,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興 会
外科手術のデジタルトランスフォーメーション:情報支援内視鏡外科手術システムの開発	猪股 雅史	消化器・小児外科学	50,957,699	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
内視鏡外科手術のデータベース構築に資する横断的基盤整備	猪股 雅史	消化器・小児外科学	3,898,700	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
下肢動脈バイパス用人工血管(バイオチューブ)の作製用鋳型の開発	宮本 伸二	心臓血管外科学	65,000,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	田仲 和宏	リハビリテーション部	17,160,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	緒方 正男	腫瘍・血液内科学	700,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
新規低分子ペプチドミメティクス設計法の開発と検証	松岡 茂	臨床薬理学	25,350,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
感染性ぶどう膜炎に対する核酸抽出不要の多項目迅速PCR検査キットの開発	中野 聡子	眼科学	12,948,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
A219「早期損傷治療効果を有する新規高機能傷シートの開発」	河野 利恵	腫瘍・血液内科学	2,050,000	補 委	国立大学法人 東北大学
肥満に伴う新型コロナウイルス感染の重症化に対する脳への影響	後藤 孔郎	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,000,000	補 委	公益財団法人 先進医薬研究 振興財団
薬剤耐性ピロリ菌感染症に対する内視鏡的光線療法の新規機器開発	二宮 繁生	消化器・小児外科学	500,000	補 委	公益財団法人 内視鏡医学研 究振興財団

腸内細菌の二次代謝産物を介した認知症予防に関する検討	後藤 孔郎	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,000,000	補委	公益財団法人三島海雲記念財団
肺癌の遺伝子多様性の解析と分子モニタリングの確立	杉尾 賢二	呼吸器・乳腺外科学	5,000,000	補委	公益財団法人上原記念生命科学財団
尾側膵切除における術中光イメージングを用いた至適切離ラインの検討	川崎 貴秀	消化器・小児外科学	250,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
ナノポアシーケエンサーによる造血幹細胞移植後の網羅的感染症検出	河野 利恵	腫瘍・血液内科学	250,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
県内産婦人科にてHTLV-1キャリアと診断された妊婦における産後の本人と児のフォロー体制	高野 久仁子	腫瘍・血液内科学	250,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
抗がん剤による末梢神経障害に対する対策について	小森 梓	腫瘍・血液内科学	250,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
免疫チェックポイント阻害薬と殺細胞薬の併用療法の期間内における放射線照射についての検討	西川 和男	腫瘍・血液内科学	250,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
免疫チェックポイント阻害薬の効果予測因子の探索的研究	大津 智	腫瘍・血液内科学	250,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
ACE発現に注目した腸内環境改善による新型コロナウイルス感染に伴う重症化予防の検討	後藤 孔郎	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,000,000	補委	公益財団法人小柳財団
原発性アルドステロン症に対するミネラルコルチコイド拮抗薬によるアルブミン尿の改善効果の検討	吉田 雄一	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,000,000	補委	公益財団法人大和証券ヘルス財団
疫学的病理の手法を用いた、高齢者臓器における炎症と臓器機能低下の解明	森 晋二郎	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,000,000	補委	公益財団法人大和証券ヘルス財団
腎淡明細胞癌で異常発現するmiR-210の生物学的機能の解析	中田 知里	腎泌尿器外科学	2,000,000	補委	公益財団法人武田科学振興財団
静磁場による脾臓由来IL-10誘導を用いた認知症発症予防の試み	後藤 孔郎	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,000,000	補委	公益財団法人渡邊財団
ACE2発現に注目したフルクトオリゴ糖による新型コロナウイルス感染の重症化予防の検討	後藤 孔郎	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,000,000	補委	公益社団法人糖業協会
角結膜炎に対する眼感染症多項目PCR検査の確立	中野 聡子	眼科学	1,960,000	補委	公益信託参天製薬創業者記念眼科医学研究基金
子宮体癌における免疫組織化学的特徴を基軸とした新たな層別化	矢野 光剛	産科婦人科	1,500,000	補委	公益財団法人今井精一記念財団
Multiplex real-time PCR法を用いた新生児感染症の網羅的迅速診断の試み	井上 真紀	小児科学	1,500,000	補委	公益財団法人今井精一記念財団

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Shinohara T Takahashi N	循環器内科	Impact of body weight on atrial fibrillation recurrence and adverse clinical events after ablation – peculiarity in Japanese patients.	Circ J. 2022 1	Original Article
2	Shinohara T Takahashi N	循環器内科	Catheter Ablation Energy Sources and Myocardial Injury and Coagulation Biomarkers During Uninterrupted Periprocedural Edoxaban Use – A Subanalysis of KYU-RABLE	Circ J. 2022 1	Original Article
3	Akioka H Yufu K	循環器内科	Reduction of bleeding complications on puncture site after percutaneous coronary intervention using a 6.5-French sheathless guiding catheter	Heart Vessels. 2022 1	Original Article
4	Shinohara T Takagi M	循環器内科	Long-term prognosis in patients with non-type 1 Brugada electrocardiogram: Results from a large Japanese cohort of idiopathic ventricular fibrillation	Ann Noninvasive Electrocardiol. 2021 7	Original Article
5	Abe I Takahashi N	循環器内科	Factors associated with bleeding events during catheter ablation with uninterrupted periprocedural edoxaban for atrial fibrillation: a subanalysis of the KYU-RABLE study	Thromb J. 2021 8	Original Article
6	Ishii Y Abe I	循環器内科	Detection of fibrotic remodeling of epicardial adipose tissue in patients with atrial fibrillation: Imaging approach based on histological observation	Heart Rhythm O2. 2021 5	Original Article
7	Takahashi M Kondo H	循環器内科	Sudden depression of R-wave amplitude in a patient who underwent subcutaneous implantable cardioverter-defibrillator implantation	HeartRhythm Case Rep. 2021 4	Original Article

8	Tanino T Yufu K	循環器内科	Proposal criteria of paradoxical low-flow low-gradient aortic stenosis for predicting prognosis in patients undergoing transcatheter aortic valve implantation	Heart Vessels. 2021 11	Original Article
9	Sato H Kondo H	循環器内科	Impact of the COVID-19 Pandemic on Acute Admissions to a Secondary Referral Hospital in a Rural City in Japan: A Retrospective Study	Disaster Med Public Health Prep. 2021 5	Original Article
10	Akamine K Kondo H	循環器内科	Suppression of acute heart failure rehospitalization by biventricular pacing in wide QRS and mid-range ejection fraction	ESC Heart Fail. 2021 12	Original Article
11	Ishii Y Nakagawa M	循環器内科	Possible Role of Narrow Anteroposterior Thorax in Patients With Brugada Syndrome	JACC Clin Electrophysiol. 2021 5	Original Article
12	Kondo H Akoumianakis I	循環器内科	Effects of canagliflozin on human myocardial redox signalling: clinical implications	Eur Heart J. 2021 12	Original Article
13	Yonezu K Shinohara T	循環器内科	Role of fragmented QRS and Shanghai score system in recurrence of ventricular fibrillation in patients with early repolarization syndrome	Ann Noninvasive Electrocardiol. 2021 7	Original Article
14	Takahashi M	循環器内科	Atrial Fibrillation-triggered Ventricular Fibrillation in a Patient with Early Repolarization Syndrome	Intern Med. 2021 7	Case report
15	Ogata M Kawano R Satou T 他	血液内科	Kinetics and clinical significance of human herpesvirus 6 DNA shedding in saliva after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Transpl Infect Dis 2021 6	Original Article
16	Terao T	精神科	Should medications with little or no efficacy be prescribed when treating bipolar disorder?	Bipolar Disord. 2021 12	Others
17	Hirakawa H Terao T Muronaga M 他	精神科	A case of clozapine-induced creatine kinase elevation after initiation of clozapine with successful continuation.	Aust N Z J Psychiatry. 2021 6	Case report

18	Terao T	精神科	Antidepressant Effects of Combined Mood Stabilizers May Account for High Placebo Response Rates.	J Clin Psychiatry. 2021 6	Others
19	Hirakawa H Ishii N 他	精神科	Association between mental illness and COVID-19 in South Korea.	Lancet Psychiatry 2021 4	Others
20	Hirakawa H Kugimiya T Ishii N 他	精神科	Body mass index, affective temperament and bipolar spectrum disorder.	J Affect Disord. 2021 12	Others
21	Terao T Hori H Buntrock C 他	精神科	Editorial: How to Help Employees Returning to Work Following Depression.	Front Psychiatry. 2021 6	Others
22	Hirakawa H Terao T	精神科	Impact of climate factors, especially temperature and relative humidity on mood fluctuations in bipolar spectrum disorder.	Bipolar Disord. 2021 11	Case report
23	Hirakawa H Terao T Hatano K 他	精神科	Increase in the left hippocampal dentate gyrus head volume after a 4-week bright light exposure in healthy participants: A randomized controlled study.	J Psychiatr Res. 2021 11	Original Article
24	Terao T	精神科	Neglected but not negligible aspects of antidepressants and their availability in bipolar depression.	Brain Behav 2021 8	Review
25	Terao T	精神科	The importance of comorbidities and concurrent drugs for assessing renal function of lithium treated patients.	Bipolar Disord. 2022 2	Others
26	Terao T Satoh M	精神科	The Present State of Existential Interventions Within Palliative Care.	Front Psychiatry. 2022 1	Review
27	Ishii N Terao T Hirakawa H 他	精神科	The Present State of Lithium for the Prevention of Dementia Related to Alzheimer's Dementia in Clinical and Epidemiological Studies: A Critical Review	Int J Environ Res Public Health. 2021 7	Review

28	Hirakawa H Terao T Ishii N 他	精神科	Thought Process Evolved From Rigid to Flexible in a Patient With Bipolar Disorder Via "Return to Work Program": A Case Report.	J Nerv Ment Dis 2021 8	Case report
29	Hiratsuka T Shigemitsu Y Etoh T 他	消化器外科	Appropriate mesh size in the totally extraperitoneal repair of groin hernias based on the intraoperative measurement of the	Surg Endosc 2021 5	Original Article
30	Itai Y Ueda Y Etoh T 他	消化器外科	Clinical significance of sarcoid-like reaction in lymph nodes of gastric cancer patients	J Surg Oncol 2021 9	Original Article
31	Fujinaga A Ohta M Endo Y 他	消化器外科	Clinical Significance of Splenic Vessels and Anatomical Features in Laparoscopic Splenectomy	J Laparoendosc Adv Surg Tech A 2021 7	Original Article
32	Ohta M Kasama K Sasaki A 他	消化器外科	Current status of laparoscopic bariatric/metabolic surgery in Japan: The 6th nationwide survey by the Japan Consortium of Obesity and Metabolic Surgery	Asian J Endosc Surg 2021 4	Original Article
33	Inomata M Fujinaga A Nakanuma H 他	消化器外科	Development of Endoscopic Surgery Navigated by Artificial Intelligence	Surg Technol Int 2021 6	Review
34	Fujinaga A Iwashita Y Tada K 他	消化器外科	Efficacy of releasing impacted gallstones after percutaneous transhepatic gallbladder drainage for acute cholecystitis and consideration of the surgical difficulty during laparoscopic cholecystectomy	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2021 11	Original Article
35	Ohta M Maekawa S Imazu H 他	消化器外科	Endoscopic intragastric balloon therapy for 15 years in Japan: Results of nationwide surveys	Asian J Endosc Surg 2021 7	Original Article
36	Endo Y Ohta M Kawamura M 他	消化器外科	Gastric wall thickness and linear staple height in sleeve gastrectomy in Japanese patients with obesity	Obes Surg 2022 2	Original Article
37	Hirashita T Iwashita Y Endo Y 他	消化器外科	How Should We Treat Pancreatic Metastases from Renal Cell Carcinoma? A Meta-Analysis	World J Surg 2021 7	Original Article
38	Ohta M Tada K Endo Y 他	消化器外科	Port-sharing techniques for laparoscopic cholecystectomy and sleeve gastrectomy	Surg Today 2021 12	Original Article

39	Suzuki K Etoh T Shibata T 他	消化器外科	Positron emission tomography complete metabolic response as a favorable prognostic predictor in esophageal cancer following neoadjuvant chemotherapy with docetaxel/cis-platin/5-fluorouracil	World J Clin Oncol 2021 4	Original Article
40	Ohta M Seki Y Ohyama T 他	消化器外科	Prediction of Long-Term Diabetes Remission After Metabolic Surgery in Obese East Asian Patients: a Comparison Between ABCD and IMS Scores	Obes Surg 2021 4	Original Article
41	Ohta M Endo Y Fujinaga A 他	消化器外科	Predictors of early withdrawal from follow-up visits after laparoscopic sleeve gastrectomy in a Japanese institution	Surg Today 2022 1	Original Article
42	Fujinaga A Ohta M Masuda T 他	消化器外科	Recurrence of gastric gastrointestinal stromal tumor 12 years after repeat hepatectomies for liver metastases: Report of a case	Clin J Gastroenterol 2021 12	Case report
43	Hirashita T Iwashita Y Fujinaga A 他	消化器外科	Relationship between the tumor location and clinicopathological features in left-sided pancreatic ductal adenocarcinoma	Surg Today 2021 5	Original Article
44	Hirashita T Iwashita Y Fujinaga A 他	消化器外科	Short internal pancreatic stent reduces pancreatic fistula in pancreatoduodenectomy	Langenbecks Arch Surg 2021 5	Original Article
45	Hirashita T Iwashita Y Fujinaga A 他	消化器外科	Surgical and oncological outcomes of laparoscopic versus open radical antegrade modular pancreateosplenectomy for pancreatic ductal	Surg Today 2022 2	Original Article
46	Ohta M Murashima N Ohyama T 他	消化器外科	The skill qualification system for portal hypertension in Japan	DEN Open 2021 11	Original Article
47	Osoegawa A Yamaguchi M Nakamura T 他	呼吸器外科	High Incidence of C797S Mutation in Patients With Long Treatment History of EGFR Tyrosine Kinase Inhibitors Including Osimertinib.	JTO Clin Res Rep. 2021 5	Original Article
48	Abe M Miura M Hamada F 他	呼吸器外科	Arterial blood supply patterning of the mammary sentinel lymph nodes with special reference to the relation of the formation	Anat Sci Int. 2021 9	Original Article
49	Sugio K Okamoto T Maniwa Y 他	呼吸器外科	Descending necrotizing mediastinitis and the proposal of a new classification.	JTCVS Open 2021 12	Original Article

50	Okamoto T Miyawaki M Toyokawa G 他	呼吸器外科	Clinical significance of part-solid lung cancer in the eighth edition TNM staging system	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2022 1	Original Article
51	Miyawaki M Jikumaru M Kamada K 他	呼吸器外科	Thymoma-associated myasthenia gravis coexisting with myotonic dystrophy: a case report	Surg Case Rep. 2021 6	Case report
52	Ogawa K Oshima Y Etoh T 他	小児外科	Label-free detection of human enteric nerve system using Raman spectroscopy: A pilot study for diagnosis of Hirschsprung disease	J Pediatr Surg. 2021 7	Original Article
53	Kawano M Iwasaki T Itonaga I 他	整形外科	Analysis of the signal cross talk via CCL26 in the tumor microenvironment in osteosarcoma.	Sci Rep, 2021 9	Original Article
54	Kaku N Tagomori H Tsumura H 他	整形外科	Comparison of Cup Setting Angle Accuracy between Computed Tomography-Based and Computed Tomography-Free Navigation in the Same Patients with Crowe's Classification I or II Hip Dysplasia.	Clin Orthop Surg 2021 6	Original Article
55	Tanaka K	整形外科	Current standards and practice changing studies in sarcomas.ESMO Asia Highlights of the Year	ESMO Asia Virtual Oncology Week 2021, 2021 11	Others
56	Tanaka K Anan M Tsubouchi Y 他	整形外科	Gait analysis of a patient who underwent complete resection of the patella and quadriceps femoris for soft tissuesarcoma.	Eur J Phys Rehabil Med. 2021 4	Original Article
57	Sako N Kaku N Kubota Y 他	整形外科	Iliac anatomy in women with developmental dysplasia of the hip: Measurements using three dimensional computed tomography.	J Orthop. 2021 4	Original Article
58	Sako N Kaku N Tagomori H 他	整形外科	Is the Iliac Wing Curved Inward in Patients with Developmental Dysplasia of the Hip?	Clin Orthop Surg. 2021 12	Original Article
59	Tanaka K Ozaki T	整形外科	Management of the elderly patients with bone and soft tissue sarcomas: JCOG Bone and Soft Tissue Tumor Study Group	Jpn J Clin Oncol, hyac 2022 3	Original Article
60	Kaku N Shimada T Hosoyama T 他	整形外科	Microvascular system of hip joint constituents with special reference to ultrastructural findings and early arteriosclerosis.	Med Mol Morphol. 2022 3	Original Article

61	Abe T Miyazaki M Ishihara T 他	整形外科	Optimal intermittent administration interval of parathyroid hormone 1–34 for bone morphogenetic protein–induced bone formation in a rat spinal fusion model.	JOR Spine. 2021 8	Original Article
62	Uchino T Miura M Matsumoto S 他	麻酔科	Comparison of three obturator nerve block techniques for injectate spread into the obturator canal: a randomized controlled trial	J Anesth. 2022 3	Review
63	Kono T Abe A Noguchi K 他	歯科口腔外科	Extragingival peripheral ameloblastoma arising in the infratemporal fossa: A case report with an assessment of proliferative activity.	Oral Science International. 2022 2	Case report
64	Abe A Kono T Uchida K 他	歯科口腔外科	Osteosarcoma of the jaw: Report of four cases.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 2022 3	Case report
65	Oyama Y Walker LA Eckle T 他	手術部	Targeting circadian PER2 as therapy in myocardial ischemia and reperfusion injury.	Chronobiol Int 2021 9	Original Article
66	Hongo N Kiyosue H Ota S 他	放射線科	Vessel Occlusion using Hydrogel–Coated versus Nonhydrogel Embolization Coils in Peripheral Arterial Applications: A Prospective, Multicenter, Randomized Trial	J Vasc Interv Radiol. 2021 4	Original Article
67	Takaji R Yamada Y Shimada R 他	放射線科	Retrospective evaluation of venous phase contrast–enhanced computed tomography images in patients who developed pancreatic adenocarcinomas after treatment for nonpancreatic primary cancer	BJR Open. 2021 7	Original Article
68	Takaji R Kiyosue H Maeuno M 他	放射線科	Angiographic features and transarterial embolization of retained placenta with abnormal vaginal bleeding	CVIR Endovasc. 2021 11	Original Article
69	Tokuyama K Kiyosue H Baba H 他	放射線科	Anomalous origin of the right vertebral artery	Applied Sciences 2021 11	Review
70	Ide S Kiyosue H Shimada R 他	放射線科	Petrobasal Vein: A Previously Unrecognized Vein Directly Connecting the Superior Petrosal Sinus with the Emissary Vein of the Foramen Ovale	AJNR Am J Neuroradiol. 2022 1	Original Article
71	Takeo Y Hara M Shirakawa Y 他	リハビリテーション部	Sequential motor learning transfers from real to virtual environment	J Neuroeng Rehabil. 2021 12	Original Article

72	Sueshige Y Shiraiwa K Honda K 他	薬剂部	A broad range high-throughput assay for lenvatinib using ultra-high performance liquid chromatography coupled to tandem mass	Ther Drug Monit 2021 10	Original Article
73	Kamei S Tanaka R Hirakawa H 他	薬剂部	A case of improvement of clozapine-induced low leukocyte counts by adenine, cepharanthin and ninjin-yoei-to in a patient with treatment-resistant	J Pharm Health Care Sci 2021 12	Original Article
74	Tanaka R Suzuki Y Morinaga Y 他	薬剂部	A retrospective test for a possible relationship between linezolid-induced thrombocytopenia and hyponatremia.	J Clin Pharm Ther 2021 4	Original Article
75	Iwao M Tanaka R Suzuki Y 他	薬剂部	Association between MR-proADM concentration and treatment intensity of antihypertensive agents in chronic kidney disease patients with insufficient blood pressure control.	Sci Rep 2021 11	Original Article
76	Tanaka R Suzuki Y Watanabe H 他	薬剂部	Association of CYP3A5 polymorphisms and parathyroid hormone with blood level of tacrolimus in patients with end-stage renal disease.	Clin Transl Sci 2021 9	Original Article
77	Shiraiwa K Suzuki Y Tanaka K 他	薬剂部	Development of a High-Throughput Quantification Method for Pazopanib Using Ultra-Performance Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry and Its Clinical Application in Patients with Soft Tissue Tumors.	Ther Drug Monit 2021 6	Original Article
78	Ono H Tanaka R Suzuki Y 他	薬剂部	Factors influencing plasma coproporphyrin-I concentration as biomarker of OATP1B activity in patients with rheumatoid arthritis.	Clin Pharmacol Ther 2021 10	Original Article
79	Tanaka,R Shiraiwa K Takano K 他	薬剂部	High-throughput simultaneous quantification of five azole anti-fungal agents and one active metabolite in human plasma using ultra-high-performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry.	Clin Biochem 2022 1	Original Article
80	Tanaka R Eto D Goto K 他	薬剂部	Pharmacokinetic and adsorptive analyses of administration of oral voriconazole suspension via enteral feeding tube in intensive care unit patients.	Biol Pharm Bull 2021 5	Original Article
81	Matsumoto A Shiraiwa K Suzuki Y 他	薬剂部	Sensitive quantification of free pazopanib using ultra-high performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry and assessment of clinical application.	J Pharm Biomed Anal 2021 11	Original Article
82	Watanabe T Tanaka R Ono H 他	薬剂部	Sensitive, wide-range and high-throughput quantification of cyclosporine in whole blood using ultra-performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry and comparison with an antibody-conjugated magnetic immunoassay.	Biomed Chromatogr 2021 8	Original Article

83	Kai M Tanaka R Suzuki Y 他	薬剤部	Simultaneous quantification of plasma levels of 12 antimicrobial agents including carbapenem, anti-methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> agent, quinolone and azole used in intensive care unit using UHPLC-MS/MS method.	Clin Biochem 2021 4	Original Article
84	Nakahara R Sumimoto T Tanaka R 他	薬剤部	Successful determination of imatinib re-administration dosage by therapeutic drug monitoring in a case of chronic myeloid leukemia initiating dialysis for acute renal dysfunction.	Clin Case Rep 2021 8	Case report
85	Yokoyama K Nakamura R Otsuka T 他	眼科	Deep anterior lamellar keratoplasty and peripheral lamellar keratoplasty for a case of severe peripheral ulcerative keratitis	Case Rep Ophthalmol 2022 1	Original Article
86	Nakano S Tomaru Y Kubota T 他	眼科	Multiplex solid-phase real-time polymerase chain reaction without DNA extraction: A rapid intraoperative diagnosis using microvolumes	Ophthalmology 2021 5	Original Article
87	Shin T Mimata H	腎臓外科・泌尿器科	"Early-pull-out" technique for intracorporeal ileal conduit urinary diversion after robot-assisted radical cystectomy	Int J Urol 2021 7	Original Article
88	Ataka T Kimura N Matsubara E 他	脳神経内科	Myelin Oligodendrocyte Glycoprotein-antibody-associated Disorder Presenting with Corticomeingeal Encephalitis Prior to the Onset of Optic Neuritis	Intern Med 2021 12	Case report
89	Sasaki Y Kimura N Aso Y 他	脳神経内科	Relationship between Cerebrospinal Fluid Matrix Metalloproteinases Levels and Brain Amyloid Deposition in Mild Cognitive Impairment	Biomolecules 2021 10	Original Article
90	Miyawaki M Jikumaru M Kamada K 他	脳神経内科	Thymoma-associated myasthenia gravis coexisting with myotonic dystrophy: a case report	Surg Case Rep. 2021 7	Case report
91	Hamanaka R Komiya K Hiramatsu K 他	呼吸器・感染症内科	A Duck after Treatment for Extensive Organizing Pneumonia	Intern Med. 2021 5	Case report
92	Kan T Komiya K Yamasue M 他	呼吸器・感染症内科	Comparison of chest computed tomography features between pulmonary tuberculosis patients with culture-positive and culture-negative sputum for non-mycobacteria: A retrospective observational study	Medicine (Baltimore). 2021 8	Original Article
93	Yoshikawa H Komiya K Hamanaka R 他	呼吸器・感染症内科	Dementia as a risk factor for aspiration in patients with COVID-19	Geriatr Gerontol Int. 2021 8	Case report

94	Usagawa Y Komiya K Yamasue M 他	呼吸器・感染症内科	Efficacy of extracorporeal membrane oxygenation for acute respiratory failure with interstitial lung disease: a case control nationwide dataset study	Respir Res. 20217	Original Article
95	Tanaka A Komiya K Yamasue M 他	呼吸器・感染症内科	Quantitative assessment of the association between erector spinae muscle and in-hospital mortality in elderly patients with pulmonary tuberculosis	BMC Res Notes 2021 4	Original Article
96	Komiya K Hamanaka R Shuto H 他	呼吸器・感染症内科	Re-expansion pulmonary edema following a pneumothorax drainage in a patient with COVID-19	BMC Pulm Med 2021 9	Case report
97	Goto A Komiya K Hiramatsu K 他	呼吸器・感染症内科	The Efficacy of Penicillins with β -lactamase Inhibitor or Cefmetazole against Pneumonia in which ESBL-Producing Bacteria were Isolated	Infect Chemother. 2021 9	Original Article
98	Fukuda K Kodama M Mizukami K 他	消化器内科	Analysis of long-term serological and histological changes after eradication of Helicobacter pylori	J.Clin.Biochem.Nutr 2022 3	Original Article
99	Ogawa R Okimoto T Kodama M 他	消化器内科	Changes in gastric mucosal glycosylation before and after Helicobacter pylori eradication using lectin microarray analysis	Turk J Gastroenterol. 2022 2	Original Article
100	Ozaka S Kodera T Ariki S 他	消化器内科	Acute pancreatitis soon after COVID-19 vaccination: A case report	Medicine 2022 1	Case report
101	Ozaka S Inoue K Tasaki T 他	消化器内科	Endoscopic Removal of Multiple Ingested Cylindrical Batteries	Cureus 2022 1	Case report
102	Honda K Endo M Arakawa M 他	消化器内科	Long-Term Changes in Body Composition After Direct-Acting Antiviral Therapy in Patients With Hepatitis C	J Gastroenterol Hepatol Res 2021 12	Original Article
103	Endo M Honda K Saito T 他	消化器内科	Maximum Plasma Concentration of Lenvatinib Is Useful for Predicting Thrombocytopenia in Patients Treated for	World J Oncol. 2021 10	Original Article
104	Ozaka S Inoue K Okajima T 他	消化器内科	Monomorphic epitheliotropic intestinal T-cell lymphoma presenting as melena with long-term survival: A case report and review of	World J Gastroenterol 2021 10	Case report

105	Ozaka S Sonoda A Ariki S 他	消化器内科	Protease inhibitory activity of secretory leukocyte protease inhibitor ameliorates murine experimental colitis by protecting the intestinal epithelial barrier	Genes Cells. 2021 10	Original Article
106	Okamoto K Kodama M Mizukami K 他	消化器内科	Immunohistochemical differences in gastric mucosal damage between nodular and non-nodular gastritis caused by <i>Helicobacter pylori</i>	J Clin Biochem Nutr 2021 9	Original Article
107	Kodama M Okimoto T Mizukami K 他	消化器内科	Gastric mucosal changes, and sex differences therein, after <i>Helicobacter pylori</i> eradication: A long-term prospective follow-up study	J Gastroenterol Hepatol 2021 8	Original Article
108	Hirashita Y Tsukamoto Y Kudo Y 他	消化器内科	Early response in phosphorylation of ribosomal protein S6 is associated with sensitivity to trametinib in colorectal cancer cells	Lab Invest 2021 8	Original Article
109	Ozaka S Gotoh Y Honada S 他	消化器内科	Rectal varix treated with endoscopic cyanoacrylate injection therapy	Clin J Gastroenterol 2021 6	Case report
110	Kinoshita K Fukuchi S Murakami K 他	消化器内科	Complications due to Biliary Stent Deviation	Austin J Gastroenterol 2021 5	Case report
111	Nishida H Kondo Y Kusaba T 他	病理診断科	Immunohistochemical Reactivity of Prostate-Specific Membrane Antigen in Salivary Gland Tumors	Head Neck Pathol 2021 6	Original Article
112	Takada N Nishida H Kondo Y 他	病理診断科	Pulmonary wedge aspiration cytology for the rapid diagnosis of pulmonary tumor thrombotic microangiopathy: A case	Diagn Cytopathol. 2021 7	Case report
113	Shiota S Kuribayashi R Utsunomiya R 他	総合内科・総合診療科	Esophageal achalasia: An unusual reason for lung abscess	J Gen Fam Med 2022 1	Others
114	Shiota S Takakura T Miyazaki E 他	総合内科・総合診療科	Ludwig's angina in a rheumatoid arthritis patient taking sarilumab	Rheumatology (Oxford) 2021 4	Case report
115	Utsunomiya R Shiota S Ishii T 他	総合内科・総合診療科	Plasma Exchange Did Not Reduce Viral Load in a Recovered Case of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome	Intern Med. 2022 1	Case report

116	Goto M, Goto-Umeki M, Uehara M 他	皮膚科	A case of cutaneous colonization of <i>Bipolaris spicifera</i> associated with radiation dermatitis	Eur J Dermatol. 2021 8	Case report
117	Nishiyori R, Goto-Umeki M Hasegawa A 他	皮膚科	A case of Stevens-Johnson syndrome-like eruption suggesting clinical importance of body temperature and serum levels of receptor- interacting kinase 3.	J Cutan Immunol Allergy. 2021	Case report
118	Sakai T, Herrmann N, Maintz L	皮膚科	Altered Serum Phospholipids in Atopic Dermatitis and Association with Clinical Status.	JID Innov. 2022 3	Original Article
119	Goto M, Izumi K, Hatano Y 他	皮膚科	Case of bullous pemphigoid positive for full-length BP180 ELISA accompanied by immunological reconstitution due to antiretroviral therapy for human immunodeficiency virus infection.	J Dermatol. 2021 10	Case report
120	Katagiri F Ueo D Okubo- Gunge Y 他	皮膚科	Fibulin-4 Accelerates Amyloid Formation by Binding with a Keratin 5 Peptide Fragment.	JID Innov. 2022 3	Original Article
121	Ueo D Furuhashi M Sasaki T 他	皮膚科	Intragenic copy number variation in mouse epiplakin 1 (Eppk1) and the conservation of the repeat structures in the lower vertebrates.	J Dermatol Sci. 2021 9	Original Article
122	Takaki K Nishida H Daa T 他	皮膚科	Possible case of dermatomyofibroma exhibiting paradoxical reduction of elastic fibers.	J Dermatol. 2021 7	Case report
123	Sakai T Herrmann N	皮膚科	Serum receptor activator of nuclear factor kappa-B ligand/osteoprotegerin ratio correlates with severity and suggests fracture's risk in older women with atopic dermatitis.	Allergy, 2021 10	Original Article
124	Sakai T Herrmann N Maintz L 他	皮膚科	Serum sphingosine-1- phosphate is elevated in atopic dermatitis and associated with severity	Allergy 2021 10	Original Article
125	Sakai T Herrmann N Maintz L 他	皮膚科	Altered Serum Phospholipids in Atopic Dermatitis and Association with Clinical Status	JID Innov. 2021 12	Original Article
126	Kadowaki Y Hirano T Suzuki M 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A novel view of computed tomography images similar to the visual field of otologic surgeons.	Laryngoscope Investig Otolaryngol 2021 8	Original Article

127	Kadowaki Y Hirano T Umemoto S 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Combined transoral and endoscopic marsupialization for a parapharyngeal space cyst.	Otolaryngol Case Rep 2021 9	Case report
128	Kawano T Hirano T Fuzinaga M 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Tumor immune tissue response to a solitary fibrous tumor treated with pazopanib	Clin Case Rep 2021 6	Case report
129	Takenaka R Goto K Yasuda N 他	救命救急科	Changes of plasma gastrointestinal peptides after otolaryngological surgery; A prospective observation study in patients with head and neck disorders.	Curr Top Pept. Protein Res 2021 4	Original Article
130	Ishii Y Abe I Kira S 他	高度救命救急センター	Detection of fibrotic remodeling of epicardial adipose tissue in patients with atrial fibrillation: Imaging approach based on histological observation.	Heart Rhythm O2. 2021 5	Original Article
131	Ishii Y Nakagawa M Abe I 他	高度救命救急センター	Possible Role of Narrow Anteroposterior Thorax in Patients With Brugada Syndrome	JACC Clin Electrophysiol. 2021 5	Original Article
132	Yonezu K Shinohara T Sato H 他	高度救命救急センター	Role of fragmented QRS and Shanghai score system in recurrence of ventricular fibrillation in patients with early repolarization syndrome.	Ann Noninvasive Electrocardiol. 2021 7	Original Article
133	Kawano N Itonaga T Tojigamori M 他	小児科	A Japanese infant presenting with hypocalcemic seizures resulting from hypovitaminosis D induced by non-celiac gluten	Clin Pediatr Endocrinol 2021 4	Case report
134	Inoue M Miyahara H Shiraishi H 他	小児科	Leucyl-tRNA synthetase deficiency systemically induces excessive autophagy in zebrafish	Sci Rep. 2021 4	Original Article
135	Ikeuchi M Kiyota K Itonaga T 他	小児科	A case of HDR syndrome coexisting with tetralogy of Fallot, with a novel GATA3 mutation, which manifested as a renal abscess	GEN Case Rep. 2021 5	Case report
136	Sekiguchi K Miyahara H Inoue M 他	小児科	Metabolome Characteristics of Liver Autophagy Deficiency under Starvation Conditions in Infancy	Nutrients. 2021 8	Original Article
137	Hirano N Houbara R Korematsu S 他	小児科	Psoriasis with short stature improved by adalimumab	Pediatr Dermatol. 2021 9	Case report

138	Itonaga T Akiba K Hasegawa Y 他	小児科	Therapeutic needs from early childhood in four patients with 21-hydroxylase deficiency harboring the P30L mutation on one allele	Clin Pediatr Endocrinol. 2021 10	Case report
139	Okawa Y Okanari K	小児科	Unilateral Sensorineural Hearing Loss in Children Associated With Sjögren's Syndrome	Cureus. 2021 10	Case report
140	Maeda T Kobayashi O Ihara K 他	小児科	Fidgety Movements Assessment Accuracy Survey in Japan	Int J Environ Res Public Health 2021 12	Original Article
141	Hirahara S Itonaga T Takeguchi M 他	小児科	A longitudinal ulcer due to Yersinia pseudotuberculosis infection in a girl	Pediatr Int. 2022 1	Case report
142	Itonaga T Izawa M Hamajima T 他	小児科	First Morning Pregnenetriol and 17-Hydroxyprogesterone Correlated Significantly in 21-Hydroxylase Deficiency	Front Endocrinol (Lausanne). 2022 1	Original Article
143	Kimura Y Kiyota K Koga H 他	小児科	Renal lesions mimicking acute focal bacterial nephritis in pediatric leukemia	Pediatr Int. 2022 1	Case report
144	Itonaga M Okanari K Maeda T 他	小児科	Simultaneous monitoring of oxygen and carbon dioxide for Pitt-Hopkins syndrome	Pediatr Int. 2022 1	Case report
145	Shimada Y Kawano N Goto M 他	小児科	Stability of amino acids, free and acyl-carnitine in stored dried blood spots	Pediatr Int. 2022 1	Original Article
146	Nishibayashi H Itonaga T Kuga S 他	小児科	Atypical food protein-induced enterocolitis syndrome after vaccinations	Pediatr Int. 2022 1	Case report
147	Kinoshita Y Inoue M Sekigucni K 他	小児科	Feto-maternal hemorrhage with placental chorioangioma: Two case reports	Pediatr Int. 2022 1	Case report
148	Oyake M Suenobu S Miyawaki M 他	小児科	Airway Emergencies Due to Anterior Mediastinal T-Lymphoblastic Lymphoma Managed With Planned Extracorporeal Membrane Oxygenation and Endotracheal Stent: A Case Report and	Cureus. 2022 2	Case report

149	Sekiguchi K Miyahara H Inoue M 他	小児科	The autophagy reaction in the human umbilical cord: a potential marker for estimating fetal nutrition and neonatal growth	J Matern Fetal Neonatal Med. 2022 2	Original Article
150	Yabe T Itonaga T Kuga S 他	小児科	An autopsy case of recurrent pneumothorax and peliosis-like intrapulmonary hematoma with X-linked myotubular myopathy	Brain Dev. 2022 3	Case report
151	Shuto T Wada T Kawashima T 他	心臓血管外科	Blood Flow Analysis After a Renovisceral Debranching Procedure by Four-dimensional Flow Magnetic Resonance Imaging	Vasc Dis Manag 2022 1	Original Article
152	Kawashima T Yoshimura K Shuto T 他	心臓血管外科	Extensive aortic stent graft coverage for thoracoabdominal aortic aneurysm is associated with hemorrhagic complications induced by disseminated intravascular coagulation	Ann Vasc Surg 2022 3	Original Article
153	Nakayama Y Higashita R Shiraishi Y 他	心臓血管外科	iBTA-Induced Biotube® Blood Vessels: 2020 Update	Kidney Dial 2022 1	Original Article
154	Okamoto K Umeno T Shuto T 他	心臓血管外科	Three-month outcomes of aortic valve reconstruction using collagenous membranes (biosheets) produced by in-body tissue architecture in a goat model: a preliminary study	BMC Cardiovasc Disord 2021 4	Original Article
155	Uchida K Shuto T Wada T 他	心臓血管外科	Various Neurological Symptoms Associated with Infected Internal Iliac Artery Aneurysm: A Case Report	Ann Vasc Dis 2021 6	Case report
156	Kawashima T Yoshimura K Shuto T 他	心臓血管外科	Aortic valve neocuspidization with in-body tissue-engineered autologous membranes: preliminary results in a long-term goat model	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2021 5	Original Article
157	Sada K Hidaka S Takemaru M 他	内分泌・糖尿病内科	A case of polyneuropathy associated with diabetic ketoacidosis in new-onset type 1 diabetes	J Diabetes Investig 2021 5	Case report
158	Yoshida Y Nagai S Shibuta K 他	内分泌・糖尿病内科	Adrenal Vein Sampling With Gadolinium Contrast Medium in a Patient With Florid Primary Aldosteronism and Iodine Allergy.	J Endocr Soc 2022 3	Original Article
159	Miyamoto S Yoshida Y Ozeki Y 他	内分泌・糖尿病内科	Dopamine-Secreting Pheochromocytoma and Paraganglioma.	J Endocr Soc 2021 12	Case report

160	Shibata H	内分泌・糖尿病内科	Exosomes and exosomal cargo in urinary extracellular vesicles: novel potential biomarkers for mineralocorticoid-receptor-associated	Hypertens Res. 2021 12	Review
161	Masaki T Ozeki Y Yoshida Y 他	内分泌・糖尿病内科	Glucagon-Like Peptide-1 Receptor Agonist Semaglutide Improves Eating Behavior and Glycemic Control in Japanese Obese Type 2	Metabolites 2022 2	Original Article
162	Yoshida Y Yoshida R Shibuta K 他	内分泌・糖尿病内科	Quality of Life of Primary Aldosteronism Patients by Mineralocorticoid Receptor Antagonists.	J Endocr Soc 2021 4	Original Article
163	Ozeki Y Kinoshita M Miyamoto S 他	内分泌・糖尿病内科	Re-Assessment of the Oral Salt Loading Test Using a New Chemiluminescent Enzyme Immunoassay Based on a Two-Step Sandwich Method to Measure 24-Hour Urine Aldosterone Excretion	Front Endocrinol (Lausanne) 2022 3	Original Article
164	Sada K Hidaka S Kashima J 他	内分泌・糖尿病内科	Renoprotective effect of additional sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor therapy in type 2 diabetes patients with rapid decline and preserved renal	J Diabetes Investig 2022 3	Original Article
165	Torigoe M Maeshima K Kuriyama Y 他	膠原病内科	Effectiveness of subcutaneous tocilizumab in refractory adult Still's disease: report of three cases and a review of the literature	Mod Rheumatol Case Rep. 2021 7	Review
166	Yamaguchi N Fukuda A Furutera N 他	腎臓内科	A Case of Nephrotic Syndrome Associated with Buerger's Disease	Intern Med 2022 3	Case report
167	Nakata T Ariie T Taito S 他	腎臓内科	Regarding: "The effect of omega-3 fatty acid supplementation on clinical and biochemical parameters of critically ill patients with COVID-19: a randomized clinical trial"	J Transl Med 2021 6	Others
168	Furutera N Fukunaga N Okita J 他	腎臓内科	Two cases of idiopathic multicentric Castleman disease with nephrotic syndrome treated with tocilizumab	GEN Case Rep 2021 10	Case report
169	Fukuda A Minakawa A Sato Y 他	腎臓内科	Excretion Patterns of Urinary Sediment and Supernatant Podocyte Biomarkers in Patients with CKD	Kidney360. 2021 11	Original Article
170	Hashimoto T Ando M Komiya K 他	感染制御部	Presumed Septic Shock Caused by Actinotignum schaalii Bacteremia	Intern Med 2021 6	Case report

171	Hashimoto T Yahiro T Yamada K 他	感染制御部	Distribution of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Virus and Antiviral Antibodies in Wild and Domestic Animals in	Am J Trop Med Hyg 2022 2	Original Article
172	Fujiki M Matsushita W Kawasaki Y 他	脳神経外科	Monophasic-Quadripulse Theta Burst Magnetic Stimulation for Motor Palsy Functional Evaluation After Intracerebral Hemorrhage.	Front Integr Neurosci. 2022 3	Original Article
173	Fudaba H Momii Y Matsuta H 他	脳神経外科	Perfusion Parameter Obtained on 3-Tesla Magnetic Resonance Imaging and the Ki-67 Labeling Index Predict the Overall Survival of	World Neurosurg. 2021 5	Original Article
174	Fujiki M Kuga K Ozaki H 他	脳神経外科	Blockade of Motor Cortical Long- Term Potentiation Induction by Glutamatergic Dysfunction Causes Abnormal Neurobehavior in an Experimental Subarachnoid Hemorrhage Model	Front Neural Circuits 2021 4	Original Article
175	Otani N Ouchi M Misawa K 他	臨床薬理センター	Hypouricemia and Urate Transporters	Biomedicines 2022 3	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、組織・構成、設置者の責務、委員会の責務、委員会の運営、委員会事務局の業務、及び記録の保管について規定している。内容は、ヘルシンキ宣言及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針にすべて対応するものとして整備している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 目的、定義、対象者、対象事象、審査する委員会に関する事項（審議事項、組織、任期、委員長、委員会の開催要件、委員以外の出席、審査手続き、審査内容、調査方法、概念の啓蒙、守秘義務）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年24回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 臨床研究の責任者・分担者を必須受講者として、講演による講習を行っている。その他研究支援業務や倫理審査委員会委員、また間接的に研究に関わる者についても基本的には必須としている。内容は、研究倫理の歴史、倫理的な問題のある具体例の解説、指針が改訂された場合はその主なポイントの解説を行っている。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

呼吸器内科臨床研修プログラム 内分泌・糖尿病内科専門医育成プログラム リウマチ・膠原病内科専門医育成プログラム 他29件
--

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	95.97 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
平松 和史	呼吸器・感染症内科	教授	34年	
柴田 洋孝	内分泌・糖尿病内科	教授	33年	
柴田 洋孝	膠原病内科	教授	33年	
柴田 洋孝	腎臓内科	教授	33年	
松原 悦朗	脳神経内科	教授	36年	
村上 和成	消化器内科	教授	38年	
高橋 尚彦	循環器内科	教授	33年	
緒方 正男	血液内科	教授	32年	
緒方 正男	腫瘍内科	教授	32年	
宮崎 英士	総合内科・総合診療科	教授	37年	
寺尾 岳	精神科	教授	36年	
井原 健二	小児科	教授	32年	
猪股 雅史	消化器外科	教授	33年	
杉尾 賢二	呼吸器外科	教授	39年	
杉尾 賢二	乳腺外科	教授	39年	
宮本 伸二	心臓血管外科	教授	37年	
藤木 稔	脳神経外科	教授	35年	
津村 弘	整形外科	教授	40年	
清水 史明	形成外科	講師	22年	
波多野 豊	皮膚科	教授	29年	
三股 浩光	腎臓外科・泌尿器科	教授	38年	
久保田 敏昭	眼科	教授	39年	
鈴木 正志	耳鼻咽喉科	教授	37年	
河野 康志	産科婦人科	診療教授	33年	
浅山 良樹	放射線科	教授	28年	
北野 敬明	麻酔科	教授	37年	
坂本 照夫	救命救急科	教授	44年	
片岡 晶志	リハビリテーション科	診療教授	34年	
河野 憲司	歯科口腔外科	教授	36年	
駄阿 勉	病理診断科・病理部	教授	34年	
上村 尚人	臨床薬理センター	教授	30年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

(看護部)

- ・看護師向け段階別研修、看護管理者向けマネジメントリーダー研修Ⅰ、Ⅲ等
(期間・実施回数・参加人数は別紙のとおり)

(放射線部)

(1) 放射線業務従事者教育訓練講習会

放射線管理区域に入って放射線診療を行う者（更新者および新規対象者）に対して、法令に基づき教育訓練研修を受講する必要がある。令和3年度はe-learning形式で以下の期間実施した。

令和3年4月1日～8月31日

更新者：302名、新規対象者：114名 ※医師、歯科医師も含む

(2) 診療用放射線の安全利用のための研修

放射線診療に従事する、放射線検査を依頼する、放射線医薬品の取扱いに従事する、放射線検査を受ける患者から説明を求められる対象者等、当院指針にて示された医療従事者は受講する必要がある。令和3年度はe-learning形式で以下の期間実施した。

令和3年11月29日～令和4年1月31日

受講者数：849名 ※医師、歯科医師も含む

(3) 放射線部技師研修

診療放射線技師対象の部内研修（医療機器安全研修および医療安全研修は除く）

- ・令和3年5月6日 色素と光のがん治療について 参加者22名
- ・令和3年6月3日 造影剤使用時の安全管理研修 参加者18名
- ・令和3年9月1日 CTインジェクター装置に関する研修会 参加者10名
- ・令和3年9月9日 胸部動態撮影システムに関する研修会 参加者23名
- ・令和3年10月14日 画像形成に関する基礎研修 参加者22名
- ・令和3年10月28日 MR造影剤使用時の安全管理研修 参加者21名
- ・令和3年11月25日 低線量立位全身X線撮影装置について 参加者17名
- ・令和3年12月9日 線量管理システム説明会 参加者18名
- ・令和4年1月27日 SyMRI説明会 参加者14名
- ・令和4年2月24日 Raquosインジェクター説明会 参加者15名
- ・令和4年3月10日 フォトカウンティングCTについて 参加者23名

(ME機器センター)

- ・メディカルスタッフ新採用者オリエンテーション：4月2日，84名
医療機器の安全使用を目的に全般の注意事項に関する内容
- ・看護部 ME機器研修：5月10日～6月30日 e-learning, 65名
新入職者を対象に医療機器の安全使用、一般病棟で使用する人工呼吸器等の生命維持管理装置、輸液ポンプやセントラルモニタに関する内容
- ・ME機器講習会：6月21日～7月20日 e-learning, 1259名

10月25日～11月24日 elearning, 1051名

全職員を対象に年2回実施、前期では基礎的知識や基本的な取り扱いとした内容、後期はインシデント事例や安全性情報に関連する内容

・各種の医療機器研修会：48回

各種医療機器の原理や適応、操作方法、インシデント事例・注意事項、トラブルシューティング等の内容

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

（薬剤部）

・研修の主な内容

新採用者オリエンテーションにより、本院において医療業務に携わる上で、各職員が必ず修得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知・徹底している。

・研修の期間・実施回数

令和3年4月1日（木）、4月2日（金）

・研修の参加人数

87名

（放射線部）

（1）特定機能病院における定期研修

安全使用に際して技術の習熟が必要と考える医療機器に関しての研修を年2回程度定期的
に実施することが義務付けられている。放射線部においては診療用高エネルギー放射線発
生装置（リニアック）ならびに診療用放射線照射装置（ ^{192}Ir 密封小線源）が該当する。

①第82回放射線治療部会（第77回日本放射線技術学会総会学術大会）WEB

期間：令和3年4月28日～6月3日

参加者：3名

②第23回鹿児島県放射線治療技術研究会 WEB

期間：令和3年7月3日

参加者：3名

③第52回千葉県放射線治療研究会 WEB

期間：令和3年7月15日

参加者：1名

④2021医学物理セミナー WEB

期間：令和3年8月7日～8月20日

参加者：1名

⑤第22回夏季学術大会 中国・四国放射線治療研究会 WEB

期間：令和3年7月19日～8月13日

参加者：1名

⑥第147回放射線治療かたろう会

期間：令和3年9月25日

参加者：1名

⑦令和3年度東北次世代がんプロ養成プラン東北大学医学物理セミナー

期間：令和3年10月16日

参加者：1名

- ⑧第83回放射線治療部会
期間：令和3年10月17日
参加者：3名
- ⑨第19回熊本放射線治療物理・技術研究会
期間：令和3年11月20日
参加者：3名
- ⑩放射線治療かたろう会 第19回放射線治療システム研究分科会
期間：令和3年11月20日
参加者：1名
- ⑪第56回放射線治療セミナー
期間：令和3年11月27日
参加者：1名
- ⑫第17回マイクロセレクトロンHDR学術研究会
期間：令和3年12月4日
参加者：1名
- ⑬神奈川県放射線治療技術研究会
期間：令和3年12月11日
参加者：1名
- ⑭令和3年度 日本放射線技術学会 愛知県放射線治療研究会
期間：令和3年12月12日
参加者：1名
- ⑮2021年度 臨床技術セミナー③【寡分割照射・定位放射線治療の今後の展開】
期間：令和4年1月8日
参加者：1名
- ⑯日本放射線技術学会中部支部放射線治療研究会Web
期間：令和4年1月15日
参加者：1名
- ⑰第148回かたろう会
期間：令和3年12月18日
参加者：1名
- ⑱第31回放射線品質管理士講習会
期間：令和4年1月20日～2月10日
参加者：5名
- ⑲第20回九州放射線治療システム研究会
期間：令和4年2月5日
参加者：1名
- ⑳第15回 南九州地域放射線治療技術合同研究会
期間：令和4年2月12日
参加者：1名
- ㉑トモセラピーウェビナーシリーズ（TBI編）
期間：令和4年2月16日
参加者：2名
- ㉒第28回徳島放射線治療研究会
期間：令和4年2月19日

参加者：1名

(2) 医療機器新規導入時研修

医療用装置・機器を新しく導入する際は、当該医療機器を操作・使用する者に対する研修を行う必要がある。令和3年度は以下の研修を実施した。

1. CT装置関連

①造影剤注入装置(Motion) 導入時取扱い研修 第1回

期間：令和3年9月1日

参加者：14名

②造影剤注入装置(Motion) 導入時取扱い研修 第2回

期間：令和3年10月18日

参加者：25名

2. PET-CT装置関連

①第2PET-CT装置(Bioraph mCT Flow)バージョンアップに伴うトレーニング研修

期間：令和3年9月9日～9月10日

参加者：3名

3. 放射線治療装置関連

①VARIAN TB101 True Beamオペレーションコース

期間：令和4年1月8日～1月11日

参加者：1名

②Radixact勉強会

期間：令和4年1月24日

参加者：4名

③Flexitron HDR アプリケーター 取扱説明会

期間：令和4年2月2日

参加者：3名

④ Flexitron HDR 取扱説明会

期間：令和4年2月15日～2月17日

参加者：7名

(3) コ・メディカル新採用者オリエンテーション

新規採用となったコ・メディカル職員に対し、「放射線と放射線防護の理解」について講義研修を実施した。

令和3年4月1日

参加者58名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

2021年度職員研修等実施一覧

	研 修 等 名	実施時期	受講人数	備 考
1	実地指導者研修 1回目	1回目 3/18	22	
2	早期研修 サービスマナー、職業倫理 コミュニケーション基礎 看護情報管理 看護過程 I (情報収集・アセスメント)	4/6~4/16	63	
3	新人フレッシュ研修	4/24		感染拡大に伴い未実施
4	技術研修 ① ①静脈内採血 ②注射薬作成と投与 ③内服薬投与	4月	63	
5	看護過程 I 研修 1回目電子カルテシステムからの情報収集①	4月	63	
6	看護過程 I 研修 2回目情報収集～アセスメント①	4月	63	
7	医療事故防止について	4月	63	
8	院内感染予防について	4月	65	
9	サービスマナー研修	4月	2	
10	職業倫理研修	4月	2	
11	新採用既卒看護師フォローアップ1ヶ月	4/22	2	
12	新人リフレッシュ研修	5/29	62	内容を変更して実施
13	薬の知識	5月	64	部署研修ビデオセミナー
14	褥瘡予防	5月	64	部署研修ビデオセミナー
15	抗がん剤療法における曝露対策	5月	64	部署研修ビデオセミナー
16	実地指導者研修 2回目	2回目5/27	22	
17	マネジメントⅢ研修 1回目リフレクティブ研修受講要件	1回目 5/13 17:00~18:30	19	
18	論理的思考 (講師:神崎英紀)	5/15 (土)	18	
19	医療安全管理 I	6/29/6/30のいずれか半日	63	
20	感染管理 I	6/24の半日	63	
21	新採用既卒看護師フォローアップ3ヶ月	6/24	2	
22	教育担当者研修 1回目教育担当者の要件	1回目6/10	16	
23	集中ケア看護	6月	38	
24	災害看護研修	6/3 17~19時	30	
25	新人1Rフォローアップ多重課題対応研修 I	7/8 7/9	63	
26	技術研修 ③ ①へパロック	7/8 7/9	62	
27	マネジメント I 研修ラダー必須研修	7/1 7/29 7/30	54	
28	医療安全管理 II (半日) ラダー必須研修	7/13 7/16	65	
29	感染管理 II (半日) ラダー必須研修	7/13 7/16	65	
30	糖尿病看護	7月	47	
31	褥瘡予防ケア研修	7月	71	
32	看護助手フォローアップ 研修	7/6	41	
33	医療事故防止について	7/6	33	
34	院内感染予防について	7/6	33	
35	抗がん剤療法における曝露対策について	7/6	33	
36	看護助手フォローアップ 研修 (20分)	7/6	40	

2021年度職員研修等実施一覧

	研 修 等 名	実施時期	受講人数	備 考
37	サービスマナー研修 (20分)	7/6	33	
38	職業倫理研修 (20分)	7/6	33	
39	倫理研修	7/26 17~19時	24	
40	BLS研修	8月	62	部署研修
41	がん化学療法看護 研修	8/6 (金)	13	
42	脳卒中リハビリテーション看護研修	8/20 (金)	10	
43	技術研修 (項目未定)	8/5	22	
44	医療事故防止について (20分)	8/5	10	
45	院内感染予防について (20分)	8/5	10	
46	抗がん剤療法における曝露対策について (20分)	8/5	10	
47	実地指導者研修 3回目	3回目9/2	22	
48	教育担当者研修 2回目教育担当者の要件	2回目9/9	16	
49	感染管理Ⅲ 1回目ラダー必須研修	1回目9/17	23	
50	慢性心不全看護	9/24 (金)	11	
51	新人2Rフォローアップ多重課題対応研修Ⅱ	10/7 10/8	62	
52	医療安全管理Ⅲ 1回目ラダー必須研修	1回目10/21	26	
53	感染管理Ⅲ 2回目ラダー必須研修	2回目 10/29 17:00~19:00	21	
54	フィジカルアセスメントⅡ (講師:山内豊明)	10/28 (木)	22	
55	がん看護	10/4 (月)	9	
56	フィジカルアセスメントⅠ (講師:山内豊明) ラダー必須研修	10/27 17~19時	69	
57	看護過程Ⅰ研修 3回目看護過程事例検討①	11/12. 11/19のいずれか1日	63	
58	マネジメントⅢ研修 2回目リフレクティブ研修受講要件	2回目11/4	19	
59	医療安全管理Ⅲ 2回目ラダー必須研修	2回目11/25	26	
60	緩和ケア	11/5 (金)	12	
61	コミュニケーションStepUp編ラダー必須研修	12/9 12/23	51	
62	周術期看護	12月	23	
63	認知症看護	12月	36	
64	サービスマナー研修	1/27	29	
65	職業倫理研修	1/27	29	
66	BLS研修	1/27	29	
67	1年目フォローアップ新人事例検討・修了式	2/3 2/4	61	
68	教育担当者研修 3回目教育担当者の要件	3回目 2/24	16	
69	マネジメントⅡ研修ラダー必須研修	11/11 12/2	40	
70	ME機器研修①	5/10~6/4	64	上記期間中部署研修
71	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い①	5/10~6/4	64	上記期間中部署研修
72	酸素ボンベの取り扱い①	5/10~6/4	64	上記期間中部署研修

2021年度職員研修等実施一覧

	研 修 等 名	実施時期	受講人数	備 考
73	心電図モニターの取り扱い	5/10～6/4	64	上記期間中部署研修
74	看護過程Ⅱラダー必須研修	9/30/10/14	37	
75	院内BLS講習会	2020年4月～2021年3月	660	部署別研修にて実施（新人除く）
76	技術研修 ②①膀胱内留置カテーテル②気管内挿管の介助	手術部研修1日目	63	
77	技術研修 ④ ①口腔内・鼻腔内吸引 ②グリセリン浣腸 ③経管栄養	部署研修	63	
78	皮膚排泄ケア看護領域 項目・スキンケア（予防的・治療的）	年間7回実施	8	
79	摂食嚥下障害看護領域 項目・食支援	年間7回実施	3	
80	アクティブナース クリティカルケア 領域項目・フィジカルアセスメント	年間7回実施	7	
81	がん看護領域 項目・がん患者の全人的アセスメント	年間7回実施	5	
82	心電図の基礎知識Ⅰ（ベーシック）	9/25・11/27	61	
83	心電図の基礎知識Ⅱ（不整脈）	9/11	20	
84	心電図の基礎知識Ⅲ（虚血）	10/23	11	
85	看護と倫理（講師：宇佐美しおり）	11/6	10	
86	老年看護（認知症・せん妄の看護）	2/28	9	
87	技術研修（項目未定）	8月中	15	部署研修
88	マネジメントラダー研修Ⅲ（組織管理：人事考課）	2021年4月	33	看護師長全員対象に変更
89	マネジメントラダー研修Ⅰ・Ⅲ（組織管理：目標管理）	2021年3月	6	
90	マネジメントラダー研修Ⅰ（組織管理：感染管理）	2021年7月	5	
91	マネジメントラダー研修Ⅰ（組織管理：医療安全管理）	2021年7月	5	
92	マネジメントラダー研修Ⅰ（組織管理：災害対策）	2021/7/30	5	
93	マネジメントラダー研修Ⅰ（組織管理：看護情報管理）	2021年8月	5	
94	マネジメントラダー研修Ⅰ（人間関係：グループマネジメント）	2021年8月	5	
95	マネジメントラダー研修Ⅰ・Ⅲ（人間関係：ストレスマネジメント）	2021年8月	7	
96	マネジメントラダーⅢ（組織管理：医療経営）	2021年8月	7	
97	マネジメントラダーⅢ（組織管理：医療安全）	2021年9月	2	
98	マネジメントラダー研修Ⅲ（組織管理：災害対策）	2021年2月	2	オンライン
99	マネジメントラダー研修Ⅰ（教育・研究・自己啓発：自己啓発への取り組み）	1900年1月	7	
100	マネジメントラダー研修Ⅰ（組織管理：医療安全管理）	2022年9月	2	
101	マネジメントラダー研修Ⅰ・Ⅲ	2022年3月	22	
102	マネジメントラダー研修Ⅰ・Ⅲ	2022年3月	22	
103	マネジメントラダー研修Ⅰ・Ⅲ	2021年3月	6	
104	マネジメントラダー研修Ⅲ（倫理：組織倫理）	2022年12月	4	
105	マネジメントラダーⅢ（組織管理：看護情報管理論）	2021年9月	2	
106	マネジメントラダーⅢ（人間関係：グループマネジメント）	2021年9月	3	
107	マネジメントラダーⅢ（組織管理：感染管理）	2021年9月	2	
108	マネジメントラダー研修Ⅰ・Ⅲ（組織管理：目標管理）	2021年3月	6	

2021年度職員研修等実施一覧

	研 修 等 名	実施時期	受講人数	備 考
109	地域包括ケア	11/18. 11/25. 1/12	7	講義・施設見学・グループワーク
110	看護職員と法的責任	2022年2月	24	オンライン
111	看護職員と法的責任	2022年3月	約600名程度	
112	看護管理者研修	6/9・7/14・9/8・11/10/12/8	32	
113	多職種連携安全管理研修	6/29. 6/30	63	多職種を交え合計115名が参加した

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 三股浩光	
管理担当者氏名	診療記録管理責任者, 医薬品安全管理責任者, 医療機器安全管理責任者, 医療情報部長, 放射線部長, 看護部長, 各診療科長, 各診療施設長, 各課長	

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課		
		各科診療日誌	各診療科		
		処方せん	電子カルテ内		
		手術記録	電子カルテ内		
		看護記録	電子カルテ内		
		検査所見記録	電子カルテ内		
		エックス線写真	電子カルテ内		
		紹介状	電子カルテ内		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ内	診療録を病院外へ持ち出すことは禁止している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業員数を明らかにする帳簿	総務課		
		高度の医療の提供の実績	医事課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課 研究推進課		
		高度の医療の研修の実績	総務課		
		閲覧実績	総務課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
			入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課 (医療安全管理部)	
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課 (医療安全管理部)	
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課 (医療安全管理部)
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課 (医療安全管理部)
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	医学・病院事務部長 近藤政美
閲覧担当者氏名	総務課長 安東敏明
閲覧の求めに応じる場所	第2会議室
閲覧の手続の概要 ・閲覧を希望する者は、総務課に申し込みを行う。 ・閲覧担当者は、閲覧を希望する者を閲覧場所の第2会議室に案内し、閲覧いただく。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する基本的考え方 2. 医療安全管理に係る体制確保のための組織等 3. 医療安全管理に係る職員の教育・研修 4. 医療事故発生時の対応 5. 医療事故等の報告及び改善策の立案 6. 院内死亡全例の報告及び検証 7. 当該指針の閲覧 8. 患者と医療従事者との間の診療情報の共有に関する基本方針 9. 患者相談に関する基本方針 10. その他（医療安全管理マニュアル及び改善策の見直し、医療安全対策の推進を図る機関への報告、高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供等） 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動の主な内容：指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関すること。 2. 医療事故の判定に関すること。 3. 医療安全管理に関する改善策に関すること。 4. 医療安全管理のための職員研修に関すること。 5. 医事紛争に関すること。 6. その他医療安全管理上の重要事項に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年6回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全と薬剤の適切な取扱いについて（第1回薬剤セミナー） 2. ME機器のインシデント事例（第1回ME機器講習会） 3. 医薬品の適正使用について（第2回薬剤セミナー） 4. インシデント事例から学ぶ（第2回ME機器講習会） 5. 放射線部MR検査室における医療安全対策 6. 令和3年度インシデント報告の総括 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 院内感染に対する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本的方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： 1. 感染予防対策の確立 2. 感染予防の実施、監視及び指導 3. 感染源の調査 4. 感染予防対策に関する情報の収集 5. その他感染予防に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： 1. 耐性菌対策としての抗菌薬適正使用 バンコマイシン耐性腸球菌（VRE） 2. 新型コロナウイルス感染症の現状と対応 3. 冬季に流行する感染症の感染対策 4. MRSA感染症の現状・感染対策 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 院内の耐性菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な耐性菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。 2. 抗菌薬の使用状況やTDM実施状況についても定期的に報告を行っており、注意を要する抗菌薬については届出制とし、感染制御部の介入を実施している。 3. 感染制御部による院内ラウンドを定期的に行い、標準予防策や感染対策の実施状況の確認、指導を行っている。また、各種感染症サーベイランスも行っており、定期的に報告を行っている。 4. マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については、病院運営委員会及び病院連絡会を通じて周知を図るとともに、感染制御部ニュースを発行し各部署へメール配信している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○メディカルスタッフ新採用者オリエンテーション（対象：メディカルスタッフ新採用者） ○静脈注射研修会（対象：新人看護師） ○「薬の知識」研修会（対象：新人看護師） ○薬剤セミナー（医療安全管理セミナー）（対象：全職員） ○医薬品の取り扱いについて（ビデオセミナー）（対象：中途採用者） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 全病棟・部門を対象に実施し、確認内容を保管記録している。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ol style="list-style-type: none"> 1. ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブの投与 2. 新生児けいれん重積および乳幼児てんかんに対するレベチラセタムの投与 3. 甲状腺クリーゼに対するルゴール液の投与 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。 D1ニュース（月1回発行）、薬剤部便り（月1回発行）、その他必要に応じて通知文書として院内通知している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年54回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容：全従業者を対象としたME機器講習会（年2回）、新卒の医師・看護師の研修プログラム、新採用者のオリエンテーション、中途採用者等については電子カルテ認証登録時のビデオセミナーでは、有効性・安全性・使用方法・保守点検に関する内容とともに当院で不具合が発生した場合の対応やマニュアルや添付文書などの遵守すべき内容を特に周知している。 1. ME機器講習会： <ul style="list-style-type: none"> 全従業者を対象に年2回実施、前期では基礎的知識や基本的な取り扱いとした内容、後期はインシデント事例や安全性情報に関連する内容等（医療材料含む）。 2. 研修プログラム： <ul style="list-style-type: none"> 医療機器の取り扱いに関して組み込まれており、人工呼吸器などの生命維持管理装置や除細動器、ベッドサイドモニターや輸液ポンプなどの安全性や使用方法、保守点検に関して実機を用いた実習を含めた内容。 3. 各種医療機器に関する研修会： <ul style="list-style-type: none"> 主に安全性や使用方法、保守点検に関してできる限り実機を用いた内容。 4. 導入時・借用時研修： <ul style="list-style-type: none"> 新規導入時、生命維持管理装置や中央貸出機器の代替機やデモ機の場合には導入時研修と同様に内容を実施。 5. 放射線関連 <ul style="list-style-type: none"> 放射線関連装置の安全使用のための研修として、①新規導入時研修、②特定機能病院における定期講習（年2回以上）を実施している。①に関しては、該当装置の使用担当者を対象として安全使用のために必要な項目について研修を行う。②は診療用高エネルギー発生装置（リニアック）および診療用放射線照射装置について、放射線治療業務を担当する診療放射線技師を対象に、技術・知識習得が必要な講習会等に参加している。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 添付文書やマニュアルに記載されている保守点検に関する事項を参照し、医療機器の特性などから特に保守点検が必要と考えられるものについて、保守点検計画書を作成している。保守点検間隔については、実施の翌月から数え、12ヶ月を超えないこととしている。医療機器安全管理専門委員会にて、前期では進捗状況の報告、後期の年度末では実施状況と来年度の計画について報告・承認を得なければならない。 2. 臨床工学技士や診療放射線技師等は機種別に作成された保守点検計画書に沿って実施し、それぞれが進捗状況の把握や責任者の押印にて確認している。 3. 放射線関連機器 <ul style="list-style-type: none"> 放射線部が管理する機器について、保守点検年間計画を策定し、それに従って実施している。保守点検のうち、日常点検は各装置の日常点検表に基づいて実施、記録し、月ごとに管理者が確認する体制を構築している。定期点検（スポットメンテナンス）は原則製造メーカーに委託し、必要な項目について点検・調整を行う。装置ごとのメンテナンスファイルを作成し、日常点検ならびに定期点検の結果を保管している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢カッピングガイド：大腿骨骨幹部及び遠位部での変形のため、膝の外反変形と膝蓋骨脱臼をきたした一症例に対する上肢カッピングガイドの適応外使用 2. AtriCure左心耳クリップ：胸腔鏡下大動脈弁置換術を受けられる患者の中で、心房細動では 	

ないが左房拡大を認める患者に対するAtriCure左心耳クリップの適応外使用

3. リポソーパー：膜性増殖性糸球体腎炎（MPGN）を原疾患とするネフローゼ症候群の患者で、6か月以上のステロイド大量療法や免疫抑制治療においても完全寛解、または不完全寛解1型に至らない（難治性ネフローゼ症候群）二次性脂質異常症を認める患者に対する適応外使用

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 経理課挾間調達室は供給業者に対して、物品購入契約締結後1週間以内に物品購入契約書、入札内訳書、見積書、カタログおよび添付文書とともに医療機器マスター登録書に必要事項を記入の上、提出させる。これらの情報を基に医療機器安全管理システムにて照会し、設置部門での使用実績や同一機種がなく、新規導入機器であると判断した場合には、導入時研修の必要性の有無を医療機器安全管理責任者に報告する。
2. 安全性情報等の収集に関する協力依頼については、安全使用のために必要な情報を製造販売業者から一元的に収集するために添付文書の改訂、自主回収・改修等の不具合情報や安全性情報について全て経理課挾間調達室に提出・報告を求める周知文書を納品時、6月・12月に供給業者に通知し、社内での周知も依頼している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>・医療安全管理責任者 医師1名（医療安全担当副院長、医療安全管理部長） ・大分大学医学部附属病院医療安全管理体制に関する細則第3条において、「医療安全管理責任者を置き、副院長（安全管理担当）をもって充て、医療安全管理責任者は、医療安全管理部、メディカル・リスクマネジメント委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括する。」旨規定している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（7名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【院内の医薬品使用状況の確認】</p> <p>医療安全担当主任は、薬剤部各部門より月1回、医薬品使用の情報（添付文書情報、緊急安全性情報、安全性速報、未承認の医薬品の使用）を収集している。</p> <p>【各種情報の整理】</p> <p>医療安全担当主任が収集した使用状況を整理し、必要な情報についてDIニュース（月1回発行）、薬剤部便り（月1回発行）、通知文書等で周知している。周知状況は各部門・病棟毎に年1回確認票を基に確認している。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】</p> <p>医療安全担当主任は、整理した情報を必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>【未承認等医薬品の処方状況の収集】</p> <p>医療安全担当主任は、調剤担当薬剤師や病棟担当薬剤師より未承認等の医薬品の処方状況を収集している。</p> <p>【未承認等医薬品のリスク検討の有無、処方の妥当性等の確認】</p> <p>医療安全担当主任は収集した情報を基に、処方の妥当性およびリスク等を確認している。</p> <p>【未承認等医薬品を処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理責任者への報告】</p> <p>リスクおよび処方の妥当性を検討後、医療安全担当主任は適宜処方変更を医師へ提案している。さらに使用を継続する場合にはクオリティマネジメント室未承認新規医薬品等管理部門にて未承認薬の臨床使用について検討している。また、医療安全担当主任は検討結果についてリストを作成し、医薬品安全管理責任者へ必要に応じて報告している。</p>	

<p>・担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 令和3年8月に診療情報管理支援室で「検査等説明書」の記載項目の監査を実施。監査結果は、診療記録委員会、病院運営委員会にて報告。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>令和3年8月 診療記録委員会に診療記録監査チームを設置し、診療記録監査を実施。</p> <p>令和3年11月 監査結果報告書を作成し、診療記録委員会、病院運営委員会にて報告するとともに、診療科、看護部、薬剤部へ監査結果をフィードバック。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・所属職員：専従（5）名、専任（1）名、兼任（12）名</p> <p>うち医師：専従（2）名、専任（1）名、兼任（8）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（3）名</p> <p>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メディカル・リスクマネジメント委員会（以下「委員会」という）が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務に関すること 2. インシデント報告を分析し、その結果を委員会へ報告すること及び現場へのフィードバックに関すること 3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと 4. 事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況の確認を行うとともに 	

- 必要な指導を行うこと
5. 事故等について、その原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
 6. 医療内容についての相談等に関すること
 7. 医療安全に係る連絡調整に関すること
 8. 医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営に関すること
 9. 医療安全の推進に関すること
 10. 医療安全に係る診療の状況の把握及び職員の意識向上の状況の確認に関すること。
 11. その他医療安全に関し必要な事項

医師については専従医師を2名配置、薬剤師については専従薬剤師を1名配置、看護師については専従看護師を2名配置済である。

診療内容及び従事者の医療安全の認識について、クオリティマネジメント室と協同し、平時からのモニタリングとして以下の項目を実施している。

- ・手術患者の肺血栓塞栓症の予防対策実施率
- ・手術の予定出血量と実測値の比較
- ・手術の予定手術時間と実際の手術時間の比較
- ・定期的に開催するセミナーでの小テストの実施

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 1. 高難度新規医療技術を実施する診療科の長（以下「診療科長」という。）から当該高難度新規医療技術の提供の申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、その実施を認める条件等について意見を求めること。
 2. 前号の意見の求めに応じ、大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、高難度新規医療技術の提供の申請を行った診療科長に対し、その結果を別に定める適否結果通知書により通知すること。
 3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、術後定期的に、診療録等の記載内容を確認すること。万一、患者が死亡した場合やその他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
 4. 高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、従業者の遵守状況

の確認を行うこと。

5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること。
 6. 大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会における審査資料及び議事概要並びに従業員の遵守状況の確認記録について、審査の日又は確認の日から5年間保存すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
 - ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 77件）、及び許可件数（ 71件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 1. 未承認新規医薬品等を使用する診療科の長（以下「診療科長」という。）から当該未承認新規医薬品等の臨床使用に係る申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会に対して当該未承認新規医薬品等の臨床使用の適否及び条件等について意見を求めること。
 2. 前号の意見の求めに応じ、大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の臨床使用の適否及び使用条件等について決定し、未承認新規医薬品等の臨床使用に係る申請を行った診療科長に対しその結果を書面により通知すること。
 3. 当該未承認新規医薬品等が適正な手続に基づき使用されていたかどうかに関し、定期的に、及び臨床使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
 4. 未承認新規医薬品等が適正な手続に基づき臨床において使用されていたかどうかに関し、従業者の遵守状況の確認を行うこと。
 5. 未承認新規医薬品等の臨床使用の適否について決定したとき、及び前号の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること。
 6. 大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会における審議資料及び議事概要並びに従業員の遵守状況の確認記録について、審査の日又は確認の日から5年間保存すること

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 227 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 16 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

院内死亡症例の報告について検証・審議し、改善策の立案等を行うこと。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り ((病院名：鹿児島大学) ・ 無)

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：琉球大学) ・ 無)

・ 技術的助言の実施状況

昨年度は相互立入り（ピアレビュー）は実施せず紙面調査のみ実施したが、指摘事項等は特になかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

① 患者相談窓口（医療安全相談室）の活動の趣旨：患者からの医療内容、医療安全等に関することの相談受付

患者相談窓口（医療安全相談室）の設置状況：窓口名称 医療安全相談室（患者相談窓口）

担当者及び相談に応じる職員：医療安全管理部副部長、医事課医療安全係長

責任者：副病院長（安全管理担当）

相談に応じる時間帯：月～金 8：30～17：15

② 医療安全管理マニュアル 総論 第7（患者相談）に下記のように定めている

1) 医療相談の受付窓口は、患者相談窓口とする。

2) 医療相談があった場合は、原則として医療安全管理部副部長が対応する。

3) 相談者との面談は、他者のいない個室で、職員2人以上で対応する。

4) 医療相談に携わる職員は、その相談情報の機密保護について厳に注意し、患者等が不利益を受けることがないように配慮する。

5) 医療相談を行った場合は、患者等からの相談・苦情報告書を作成し、病院長まで報告する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

令和3年度医療安全管理セミナー（e-Learning） 6回実施

（講師：薬剤師、臨床工学技士、診療放射線技師、看護師）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医薬品安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構主催の「2021年度特定機能病院管理者研修」を受講済

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和元年7月24日～7月26日に、（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価（主たる機能種別「一般病院3」及び副機能種別「精神科病院」）を受審し、令和2年2月7日に認定（改善要望事項なし。有効期限は令和7年2月6日）を受け、本院HP上で公表済みである。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

該当なし

・評価を踏まえ講じた措置

該当なし

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <p>【国立大学法人大分大学医学部附属病院長の選考等に関する規程（抜粋）】</p> <p>第3条 病院長候補者となることができる者は、医師免許を有し、かつ、国立大学法人大分大学の教授（教授予定者を含む。）であって、次の各号に掲げる資質及び能力を持つものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1） 人格が高潔で、学識に優れ、人望があり、かつ、医学部附属病院（以下「本院」という。）の現状を理解した上で将来の在り方に明確な理念を持ち、リーダーシップを発揮できる者 （2） 医療人教育機関である本院の責任を自覚し、優れた教育者として卒前教育、卒後研修及びその後の医療人養成に貢献できる者 （3） 高度な医療を実践する本院の責任を自覚し、最先端の医療の提供を推進できる者 （4） 患者の安全を第一として、医療安全の確保を担保する知識、経験及び能力を有する者 （5） 科学としての医学の重要性を理解し、医学研究機関である本院の医学研究の発展に貢献できる者 （6） 大分県の中核病院である本院のリーダーとして地域医療の現状を深く理解し、その維持及び発展に貢献できる者 （7） 病院の運営に関する経験を有し、病院経営を担う能力を有する者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 <p>医学部附属病院のホームページにおいて公表している。</p>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
津村 弘	大分大学	○	大分大学医学部附属病院長選考会	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無

			議細則第3条1項1号に基づく学 長が指名する理事	
杉尾 賢二	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項2号に基づく医 学部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
村上 和成	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項3号に基づく医 学部附属病院副病院長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
柴田 洋孝	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項4号に基づく医 学部医学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
高橋 尚彦	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項4号に基づく医 学部医学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
宮崎 英士	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項4号に基づく医 学部医学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
藤木 稔	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項4号に基づく医 学部医学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
猪股 雅史	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項4号に基づく医 学部医学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
原田 千鶴	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項5号に基づく医 学部看護学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
富永 志津代	大分大学医学部 附属病院		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項6号に基づく医 学部附属病院看護部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
河野 幸治	大分県医師会長、 河野小児科医院院 長		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項7号に基づく学 外の有識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
井上 敏郎	大分県病院局長		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項7号に基づく学 外の有識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
内田 勝彦	全国保健所長会会 長、大分県東部保 健所長		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項7号に基づく学 外の有識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
草野 俊介	社会福祉法人大分 県社会福祉協議会 長		大分大学医学部附属病院長選考会 議細則第3条1項7号に基づく学 外の有識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針，中期計画，予算及び決算 等 ・審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> ○医学部附属病院運営に関する連絡会 ○医局長会 ○医学部附属病院の院内専用ホームページより常時閲覧可 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・公表の方法 法人本部のホームページにおいて公表している。 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
三股 浩光	○	医師	病院長，災害対策室長
柴田 洋孝		医師	病院長補佐，内分泌・糖尿病内科長，膠原病内科長，腎臓内科長，血液浄化センター長
松原 悦朗		医師	脳神経内科長，認知症先端医療推進センター長
村上 和成		医師	副病院長，消化器内科長，内視鏡診療部長，肝疾患相談センター長
高橋 尚彦		医師	病院長補佐，循環器内科長，検査部長，CCU部長
緒方 正男		医師	血液内科長，腫瘍内科長，輸血部長
宮崎 英士		医師	総合内科・総合診療科長
寺尾 岳		医師	副病院長，精神科長
井原 健二		医師	小児科長，遺伝子診療室長，周産母子センター長
猪股 雅史		医師	副病院長，消化器外科長，小児外科長，卒後臨床研修センター長
杉尾 賢二		医師	医学部長，呼吸器外科長，乳腺外科長
宮本 伸二		医師	副病院長，心臓血管外科長，クオリティマネジメント室長
藤木 稔		医師	脳神経外科長，リハビリテーション部長
加来 信広		医師	整形外科長，リハビリテーション科長
清水 史明		医師	形成外科長
波多野 豊		医師	皮膚科長

秦 聡孝		医師	腎臓外科・泌尿器科長
久保田 敏昭		医師	眼科長，材料部長，移植・再生医療支援室長
鈴木 正志		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
河野 康志		医師	産科婦人科長
浅井 良樹		医師	放射線科長，放射線部長
北野 敬明		医師	麻酔科長，手術部長，集中治療部長
安部 隆三		医師	救命救急科長，高度救命救急センター長
河野 憲司		歯科医師	歯科口腔外科長
駄阿 勉		医師	病理診断科・病理部長
下村 剛		医師	病院長補佐，医療情報部長
平松 和史		医師	副病院長，呼吸器・感染症内科長，感染制御部長，医療安全管理部長
上村 尚人		医師	臨床薬理センター長，総合臨床研究センター長
大津 智		医師	腫瘍センター長
穴井 博文		医師	ME機器センター長
白石 憲男		医師	看護師特定行為統括センター長，総合患者支援センター長
伊東 弘樹		薬剤師	副病院長，薬剤部長
富永 志津代		看護師	副病院長，看護部長
吉田 幸人		技術職員	医療技術部長
近藤 政美		事務職員	副病院長，医学・病院事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。
- ・ 規程の主な内容
【大分大学医学部附属病院規程（抜粋）】
（病院長）
第3条 病院に病院長を置く。
2 病院長は、病院の管理運営を総括し、職員を監督するため、次の各号に掲げる事項について権限を有する。
（1） 病院の管理運営のために必要となる人事及び予算に関すること。
（2） 病院の診療、教育及び研究に係る実施の許可、報告、調査、是正又は停止に関すること
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
【大分大学医学部附属病院規程（抜粋）】
（副病院長）
第4条 病院に副病院長7人を置き、総務・経営・企画担当、安全管理担当、医療人育成担当、先端医療・広報担当、薬事担当、看護担当及び事務担当とする。ただし、病院長が特に必要と認める場合は、更に1人の副病院長を置くことができる。
2 副病院長は、病院長の命を受け、次の各号に掲げる事項について病院長の職務を補佐する。
（1） 副病院長（総務・経営・企画担当）
主として本院における経営・企画等、運営戦略的事項全般に関すること。
（2） 副病院長（安全管理担当）
主として本院における医療安全管理及び危機管理に関すること。
（3） 副病院長（医療人育成担当）
主として本院及び関連病院における卒後臨床研修・地域医療研修の実施・計画等、医療人の育成に関する事項全般に関すること。
（4） 副病院長（先端医療・広報担当）
主として本院における先端医療、研究及び広報全般に関すること。
（5） 副病院長（薬事担当）
主として本院における薬事業務全般に関すること。
（6） 副病院長（看護担当）
主として本院における看護業務全般に関すること。
（7） 副病院長（事務担当）
主として本院における事務業務全般に関すること。
（8） 副病院長（特命事項担当）
必要に応じ置くものとし、主として病院長が指示した特命事項に関すること。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修、医薬品安全管理責任者等講習会、トップマネジメント

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理責任者、大分大学医学部附属病院メディカル・リスクマネジメント委員会、医療安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等の業務が適切に行われているかどうかについて、病院長に報告を求めること。 2. 前号に規定する業務に関し、実地の確認を行うこと。 3. 学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう求めること。 4. 医療安全管理に係る監査業務の実施結果について公表すること。 5. その他医療安全管理の監査及び評価に関し必要な事項 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 公表の方法： 医学部附属病院のホームページにおいて公表している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
佐藤 昌司	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
岡村 邦彦	岡村法律相談事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者 その他の医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
小野 克重	大分大学医学部		学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
医学部附属病院の業務に関し、特定機能病院の要件及び医療法改正に伴う体制整備等について定期監査を年に一度実施している。
- ・専門部署の設置の有無（ ・無 ）
- ・内部規程の整備の有無（ ・無 ）
- ・内部規程の公表の有無（ ・無 ）
- ・公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会で病院の管理運営に関する重要事項を、経営協議会で病院の収支報告について確認を行う。 ・ 会議体の実施状況 役員会（年25回） 経営協議会（年5回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 役員会（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年2回） 経営協議会（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年4回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法 法人本部のホームページにおいて公表している 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 病院HP内の該当URLを貼付し、毎年4月にメーリングリスト(学内周知文書)を用いて、周知を行っている。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>病院ホームページによる情報発信</p> <p>病院広報誌の発行（年4回）</p> <p>県内関連病院長連絡会議の開催（年1回）</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>チーム医療（外来化学療法チーム、緩和ケア支援チーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム等）を実践しており、複数診療科の医師及び多職種のスタッフが連携して対応を行っている。</p>	